

# 聖徒の道

5  
1997

末日聖徒イエス・キリスト教会



# 聖徒の道



## 表紙

表紙—ノルウェー・オスロステーク、オスロ第3ワードのクリスチャン・タルエイ・ギルセット(16歳)。裏表紙—ユースカンファレンスに参加したノルウェーの祭司とローレルの青少年たち(本誌「重荷を分け合う」p.10参照。表紙写真撮影/ジャネット・トーマス、ブライアント・リビングストン)。

## こどものページ

タイのロイエトでバプテスマを受ける8歳の女の子(写真/エーシー・ハーバーの厚意により掲載。The Mission「ザ・ミッション」より)。

## 一般

- 2 大管長会メツセージ—わたしたちの信仰  
第一副管長トーマス・S・モンソン
- 16 あら探しという霊的な危険 マーク・D・チェンバレン
- 21 もう一度、快く迎えてくれるかしら アウレリア・S・ディエソン
- 26 どうかルースをお助けください ルース・ハリス・スワナー
- 28 半ペニーと真珠 ジェリー・ポローマン
- 34 おお、開拓者よ! 近年発表された、開拓者をたたえる芸術作品から
- 38 いつもの木曜日 ガブリエル・ラローズ
- 40 アンデスの開拓者 アレン・リスター

## 青少年

- 8 伝道中の帰郷 スリー・デビ・コム
- 10 重荷を分け合う ジャネット・トーマス
- 14 神はこたえてくださる テリー・リン・ビットナー
- 22 質疑応答—わたしは教会員です。それなのに、なぜあまり幸福ではないのでしょうか
- 32 テレビとの正しいつきあい方 リサ・M・グローバー

## 定期特別記事

- 1 読者からの便り
- 25 家庭訪問メッセージ—キリストがおられることを知る

## こども

- 2 小さなお友だちへ—ジェフリー・R・ホランド長老
- 4 分かち合いの時間 バプテスマ—さいしょのせいやく カレン・アシュトン
- 6 みたまはぼくに勇気をあたえてくれました グベンガ・オーナラジャ
- 8 小さな一歩でも、大きな一歩
- 10 新しい日の始まり レイ・ゴールドラップ作
- 13 おもちゃばこ—『新約聖書』の人びと ジャネット・ピーターソン
- 14 たんけん—主の宮 シェリー・ジョンソン



本誌は、末日聖徒イエス・キリスト教会の公式刊行物です。本誌は以下の言語で出版されています。月刊—イタリア語、英語、オランダ語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、中国語、韓国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、フィンランド語、フランス語、ポルトガル語、ノルウェー語。隔月刊—インドネシア語、タイ語。季刊—チェコ語、ブルガリア語、ハンガリー語、アイスランド語、ロシア語。

**大管長会:** ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン、ジェームズ・E・ファウスト  
**十二使徒定員会:** ボイド・K・バックナー、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オーグス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリング  
**編集長:** ジャック・H・ゴーズリン  
**顧問:** L・ライオネル・ケンドリック、ウィリアム・ロルフ・カー

**教科課程管理部責任者**  
 実務部長: ロナルド・L・ナイトン  
 企画: 編集ディレクター: ブライアン・K・ケリー  
 グラフィックスディレクター: アラン・R・ロイボーク

**国際機関誌スタッフ**  
 編集主幹: マービン・K・ガードナー  
 編集主幹補佐: R・バル・ジョンソン  
 編集副主幹: デビッド・ミッチェル、ティエーン・ウォーカー  
 編集補佐: ジェニファー・グリーン、ウッド  
 工程管理: メアリーアン・マーティンデル  
 出版補佐: ベス・デーリー

**デザインスタッフ**  
 機関誌グラフィックスディレクター: M・M・カワサキ  
 アートディレクター: スコット・バン・カンベン  
 デザイナー: シェリー・クック  
 制作主幹: ジェーン・アン・ピーターズ  
 制作: レジナルド・J・クリステンセン、デニス・S・カービー、マシュー・H・マックスウェル

**予約購読スタッフ**  
 ディレクター: ケイ・W・ブリッグス  
 配送部長: クリス・クリステンセン  
 マーケティング部長: ジョイス・ハンセン  
 聖徒の道1997年5月号第41巻第5号  
 発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会  
 〒106東京都港区南麻布5-10-30  
 電話 03-3440-2351

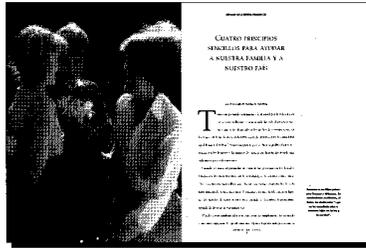
印刷所 株式会社 リック  
 定価 年間予約/海外予約2,400円(送料共)  
 半年予約1,200円(送料共)  
 普通号/大会号200円

Copyright©1997 by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. All rights reserved. Printed in Japan. 英語版承認—1995年9月 翻訳承認—1995年9月 原題—International Magazines May, 1997. Japanese. 97985 300

●定期購読は、「『聖徒の道』 予約申し込み用紙」でお申し込みになるか、または現金書留か郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて資料管理部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●『聖徒の道』のお申し込み・配送についてのお問い合わせ…〒133東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会資料管理部配送センター ☎03-5668-3391

The *Seito No Michi* (ISSN 0385-7670) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A. and Canadian subscription price is \$14.00 per year. SIXTY days' notice required for change of address. INCLUDE ADDRESS LABEL FROM A RECENT ISSUE. CHANGES CANNOT BE MADE UNLESS BOTH OLD ADDRESS AND NEW ONE ARE INCLUDED. Send U.S.A. and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, P. O. Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368, USA. SUBSCRIPTION HELP LINE: 1-800-453-3860, U.S. EXT. 2947; CANADA EXT. 2031. CREDIT CARD ORDERS (VISA, MASTERCARD, AMERICAN EXPRESS) MAY BE TAKEN BY PHONE. PERIODICALS POSTAGE PAID AT SALT LAKE CITY, UTAH.

**POSTMASTER:** Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, P.O.Box 26368, Salt Lake City, Utah 84126-0368, U.S.A.



**賢明な勧告**

『リアホナ』(スペイン語版)の1996年6月号に掲載された大管長会メッセージ、「家族と国の助けとなる4つの簡単な事柄」を読み、わたしたちは預言者ゴードン・B・ヒンクレー大管長の言葉に驚きました。この記事から、わたしたちが時々教会の集会を休んだり、教えに従った生活からそれてしまったりする状態について考え、気づかぬうちにどんなに家族を誤った道へ導いていたか、思い知らされました。このメッセージのおかげで指導者から求められている価値観を身に付けようと、決意を新たにしました。ヒンクレー大管長の賢明な勧告を読み終えると、活力と信仰が全身にみなぎるのを覚えました。

ドミニカ共和国、オリエンタルステーク、サントドミンゴ、メンドーサワード  
 フェルナンド・オクマレ、エバ・オクマレ

**青少年が福音にあって成長する機会**

わたしは17歳ですが、世界の至る所で主が教会の青少年に御霊を注いでくださっていることをよく感じます。青少年のわたしたちは、成長する機会を主から数多く頂いています。セミナープログラム、ユースカンファレンス、若い女性のキャンプ、それに『聖徒の道』もその一つです。わたしたち一人一人は皆神様の子供であり、神様がわたしたちを深く愛してくださっていると証します。

町田ステーク、町田第一ワード  
 種岡 留都

**霊を鼓舞するメッセージ**

1993年7月25日、わたしは娘の一人とともにバプテスマを受けました。もう

一人の娘も一緒に宣教師からレッスンを受けていましたが、バプテスマを受けませんでした。時が過ぎ、娘は再びレッスンを聞きましたが、それでもバプテスマには至りませんでした。そこでわたしは意を決し、娘のための『リアホナ』(スペイン語版)を予約購読することにしました。『リアホナ』の助けもあり、御霊による証を得る道が娘にも開かれました。そして2、3か月がたち、娘はバプテスマを受けました。今では、わたしは霊を鼓舞し高揚させてくれるこのメッセージを心待ちにしています。

ベネズエラ、バルセロナステーク、ボリビア支部  
 ミレヤ・ジョセフィナ・アルメラ・デ・ロドリゲス



**大きな価値**

『リアホナ』(スペイン語版)はわたしにとって大きな価値があります。『リアホナ』を手にして最初にするのは、大管長会メッセージを読み、自分の生活に応用することです。またほかの会員の個人的な経験についての記事も読めます。

この機関誌には、ほかにも質疑応答というすばらしい記事があります。1996年2月号に掲載された記事「恋愛ドラマは有害なのでしょうか」から、わたしと家族は助けとなる導きを得ました。

わたしの人生において、イエス・キリストの福音、そしてイエス・キリストの真実の教会に活発に集うことは、最も尊く、ほかの何にも増して平安と喜びを与えてくれます。

コロンビア、フカランガステーク、リアルデミナスワード  
 カルロス・アルトゥーロ・デュラン・ロハス



# わたしたちの信仰

第一副管長  
トーマス・S・モンソン

エ

バン・スティーブズ兄弟は、タバナクル合唱団の指揮者をしてい  
たとき、「末日聖徒の若人の信仰」というテーマで話された故ジョセ  
フ・F・スミス大管長の説教に非常に心を動かされました。

「大会が終わると、スティーブズ教授は独りでシティー・クリーク・キ  
ャニオンに出かけて行き、大管長の靈感された言葉を心に思い巡らしていた。  
すると突然、〔天よりの靈感〕が彼に下った。彼は、眼下を急な川の流れる岩  
の上に腰を下ろすと、一篇の詩を書いた。』<sup>1</sup>それが次の詩である。

シオンの若者、真理を守り  
攻め来る敵に<sup>あ</sup>遭い、ひるまず逃げず ああ  
われら受けし信仰待ち、<sup>じゆんきようしや</sup>殉教者の持つ真理を信じ  
戒め守らん、手に心に<sup>いまし</sup>霊にも<sup>2</sup>

教会の初期の時代にも、若者は数々の苦難に直面し、解決すべき様々な問  
題に心を痛めていたことでしょう。青年期は安易な時期でもなければ、難問  
から解放される時期でもありません。昔と同様に今でもそのことが言えます。  
事実、時代の<sup>へんせん</sup>変遷とともに若人に降りかかる問題の規模や範囲は非常に勢い  
で増大しています。誘惑は人生の地平線にいつも不気味な姿を現します。暴  
力、盗み、薬物の乱用、ポルノグラフィなどがテレビ番組の主題となり、  
ほとんど毎日のように新聞をにぎわしています。このようなものはわたした



<sup>こんにち</sup>今日は新しい試練、新し  
い問題、新しい誘惑を抱  
える新しい時代かもしれ  
ません。しかし、大勢の  
末日聖徒の若人は、絶え  
ず努力を惜しまず、熱心  
に仕え、信仰に忠実に生  
きようとしています。

ちの計画を打ち砕き、思考力を鈍らせるものでしかありません。間もなくこれまで仮定でしかなかったことが現実となり、世界中至る所で若者が「これまでになく好ま

キンボール大管長は次のように言いました。「彼に切手を売るように言ってください。この犠牲は彼にとって大きな祝福となることでしょう。……〔教会本部に送られてくる切手〕を取っておいて、ガルシヤ兄弟の伝道が終わるときに渡してください。彼はただでメキシコ中のだれよりもすばらしい切手を集めることができますでしょう。」

しくない」とか「最悪の連中だ」などと決めつけられてしまう時がやって来ると言われています。

しかしそのような考え方は間違いであり、このような主張は誤っています。

確かに今日は新しい試練、新しい問題、新しい誘惑を抱える新しい時代かもしれません。しかし、大勢の末日聖徒の若人は、初期の教会の気高い若人がそうであったように、絶えず努力を惜しまず、熱心に仕え、信仰に忠実に生きようとしています。善悪の区別が非常にはっきりしているため、現代の風潮からすれば彼らの言動は例外と見なされます。しかしそれゆえに世界中の心ある人々はかえって称賛し、注目し、感謝するのです。

ここで皆さんにミネソタ在住のある方から頂いた手紙をご紹介します。あて先はブリガム・ヤング大学となっています。

「拝啓、わたしは12月22日にミネソタ南部を出発し、アイオワ州デモイン、イリノイ州シカゴを経由してフロリダの南端までバス旅行をしました。途中、デモインで若者たちのグループと一緒にになりました。この善良な若者たちはブリガム・ヤング〔大学〕の学生で、休日を利用して郷里に帰るところでした。皆さん、非常に礼儀正しく、しっかりとした考えを持った若者たちでした。彼らと同行できて、ほんとうに光栄でした。彼らはわたしの未来に希望の光を投げかけてくれました。

わたしは、大学だけではこのような立派な若者が育つはずのないことを知っています。彼らの優れた人格はすばらしい家庭で形成されたものだと思います。

恐らく、ご両親の力でしょう。ご両親に直接このことをお伝えできませんので、感謝の気持ちを伝えるべく大学にお便りさせていただきました。」

このような称賛の言葉を受けるのは決して珍しいことではありません。お褒めの言葉を頂く度に、わたしたちはいつも大きな喜びを覚えるのです。末日聖徒の学生たちは信仰を行動に表しているすばらしい模範です。



世界の人々を驚かせ、彼らの心に信仰をわき立たせるもう一つの集団があります。それは、現在全世界で働いている末日聖徒の宣教師です。これらの青年男女は伝道の召しを受ける特別な日を心待ちにし、その日のために、全生活をかけて準備してきた人々です。父親は子供に誇りを感じ、母親は幾分不安を覚えます。ここで宣教師推薦書から、ある監督の言葉を引用したいと思います。「これまでに推薦した人の中で、彼ほど傑出した人物はおりません。彼は生活のあらゆる面において秀でており、これまで教会ではアロン神権定員会会長を務め、高校では役員をしていました。また陸上競技とフットボールのスターでもありました。わたしはこれほど優れた若者を宣教師に推薦した記憶がありません。そして自分がその若者の父親であることを誇りに思っています。」

監督やステーキ会長はもっと一般的なことを書いてきます。「ジョンはすばらしい青年です。彼は肉体的、精神的、経済的、靈的に伝道の備えができており、どこに召されようと喜んで仕え、立派に召しを果たしてくれるものと思います。」

ある日、わたしはキンボール大管長が専任宣教師の召しの手紙に署名するのを見ていました。その中に大管長自身の孫にあてた召しの手紙がありました。大管長はその手紙に教会の大管長として署名をした後、本文の下にこう書き添えました。「君を誇りに思っているよ。愛を込めて、おじいちゃんより。」

召しを受けた若者は、大学の教科書に代わって聖典を手にするようになります。家族や友人、親友としばらくの間別れて、デートやダンス、ドライブを忘れ、求道者を見つけて福音を教え、証を述べるようになります。

ここで信仰篤い数名の宣教師を紹介させていただきます。この実例から、彼らが「シオンの若者、真理を守り」という言葉どおりの生活をしていることがよく分かるでしょう。

最初に、メキシコ出身のホセ・ガルシヤ兄弟のことをお話しします。彼は貧しい家庭に生まれましたが、幼いころから信仰をはぐくまれてきました。そして、伝道の召しに備えていました。彼の推薦書が大管長のもとに届

いたとき、ちょうどわたしもそこにいました。推薦書には次のように書かれていました。「ガルシヤ兄弟が伝道に出ることは、家族にとって大きな犠牲です。彼は家族の生活を支える働き手です。彼の持ち物はただ一つ、宝物のように大切にしている切手のコレクションしかありません。もし必要であれば、彼は伝道資金とするためにそれも喜んで売るつもりでいます。」

推薦書が読み上げられる間じっと聞いていたキンボール大管長は、次のように答えました。「彼に切手を売るように言ってください。この犠牲は彼にとって大きな祝福となることでしょう。」それから愛に満ちた大管長は目を輝かせ、顔に笑みを浮かべて次のように言いました。「毎月、教会本部には世界各地から何千通もの手紙が送られてきます。それらの切手を取っておいて、ガルシヤ兄弟の伝道が終わるときに渡してください。彼はただでメキシコ中のだれよりもすばらしい切手を集めることができるでしょう。」

これは、時と場所は異なりますが、救い主の経験をそのまま表しているように思われます。

「イエスは目をあげて、金持たちがさいせん箱に献金を投げ入れるのを見られ、また、ある貧しいやもめが、レプタ二つを入れるのを見て言われた、『よく聞きなさい。あの貧しいやもめはだれよりもたくさん入れたのだ。』」(ルカ21:1-3)

「みんなの者はありあまる中から投げ入れたが、あの婦人はその乏しい中から、あらゆる持ち物、その生活費全部を入れたからである。」(マルコ12:44)

次に、ユタ州プロボにある宣教師訓練センターにいた宣教師をご紹介します。この宣教師は南ドイツで効果的に伝道するため、ドイツ語を熱心に勉強していました。毎日、ドイツ語の文法書を手にとって、表紙にある西ドイツのローテンブルクの古風な趣のある家の写真にじっと見入っていました。その写真の下に住所が書かれていました。その青年はこう決心していました。「この家を訪問して、そこに住んでいる人にきっとこの真理を伝えよう。」そして彼はそれを実行しました。その結果、ヘルマ・ハーン姉妹を改宗し、彼女にバプテスマを施す

ことができたのです。彼女は現在、世界中から家を見学に来る観光客に語りかけ、イエス・キリストの福音から得られた祝福について述べるのを喜びとしています。ハーン姉妹の家は恐らく、世界でも最も有名な記念撮影場所の一つであろうと思われます。そしてここを訪れる人は皆、称賛と感謝の念に満ち、簡潔でしかも熱のこもった福音に対する証を聞いて帰るのです。ハーン姉妹に福音を伝えたこの宣教師は、主から与えられた次の神聖な責任をよく覚えていました。「それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し〔なさい。〕」(マタイ28:19)

3番目は、揺るぎない信仰を持った宣教師マーク・スキッドモア長老の話です。スキッドモア長老は、ノルウェーへの召しを受けたとき、ノルウェー語を一言も知りませんでした。しかし、福音を教え、証を述べるためには、ノルウェー人の言葉に通じる必要があると感じました。そこで彼はひそかに決意しました。「わたしはノルウェー人の家族をバプテスマの水に導くまでは絶対に英語を話さない。」それから彼はよく勉強し、熱心に祈り、主に嘆願し、そして働きました。このようにして彼は信仰の試しを乗り越え、望んでいた祝福を得ました。すばらしい家族を教え、バプテスマを施したのです。そして半年ぶりに英語を話しました。その週に、わたしは彼と会いましたが、彼の口から出るのはただ主に対する感謝の言葉だけでした。わたしはそのとき勇敢な司令官モロナイの言葉を思い出しました。「わたしは権力を求めず、……わたしは世の誉れを求めず、むしろ神の栄光……を求めています。」(アルマ60:36)

最後に気高い宣教師の息子を持つ母親についてお話したいと思います。この家族は寒さの厳しいワイオミング州のスター・バレーに住んでいました。夏は短く、冬は長くて寒い地方です。19歳の息子が伝道で家を空ければ、その分仕事の負担がだれにかかるかは明らかでした。そのうえ、父親は病気にかかっている仕事もできません。そのため、家族を養う乳牛の乳搾りの仕事も、母親の両肩にかかりました。

わたしは、伝道部長をしていたとき、ソルトレーク・シティーで開催された伝道部長セミナーに出席しました。そのときわたしと妻は自分の伝道部で宣教師として働いている若者たちの両親と会合を持ちました。その会には裕福で、身なりもきちんとした両親が何人も集まりました。話しぶりも穏やかで、皆、強い信仰の持ち主でした。それとは反対にそれほど裕福な風でもなく、服装も質素で、遠慮がちな人々もいました。しかしそのような両親もまた、宣教師であるわが子を誇りに思い、彼らのために祈り、彼らの幸福のために犠牲をささげていることに変わりはありませんでした。

その日の午後に会った両親の中で、最も強く印象に残っているのが、スター・バレーから来た前述の母親でした。彼女がわたしに握手を求めてきたとき、わたしはその手に大きなたこができていのに気づきました。明らかにそれは、毎日の野良仕事によってできたものでした。この母親は、北風に吹かれて荒れた顔で、節くれ立った手をいかにもすまなさそうに差し出しながら、小さな声でこうつぶやきました。「息子のスペンサーに、愛していると伝えてください。みんな息子のことを誇りに思っています。毎日彼のためにお祈りしています。そう伝えてください。」

その夜、わたしは生まれて初めて天使に会い、天使の語る声を聞いたような気がしました。母親の言葉を本人に同じように伝えることなどできませんでした。天使のような母親がキリストの御霊に満たされて語った言葉だったからです。かつて神の手をしっかりとつかんで死の陰の谷を勇敢に歩き、息子をこの世にもたらしたこの母親から、わたしは決して忘れることのできない印象を受けました。

そのような気高い母親に育てられ、導かれた宣教師たちはヒラマンの若い兵士にも匹敵します。

「彼らは皆、青年であって、非常に勇敢であり、体力と活力がみなぎっていた。しかも見よ、それだけではなく、彼らは託されたことは何であろうと、いつでも誠実に果たす者たちであった。

まことに彼らは神の戒めを守り、神の前をまっすぐに

歩むように教えられていたので、誠実でまじめな者たちであった。」(アルマ53：20-21)

このような宣教師の模範は人々の心に信仰をはぐくみ、自信を植え付けます。また真理を教え、神を証あかしします。それはまさに次の賛美歌の歌詞を立証するものです。

シオンの若者、真理を守り  
攻め来る敵に遭あい、ひるまず逃げず ああ  
われら受けし信仰持ち、  
殉教者じゆんきやうしやの持つ真理を信じ  
戒め守らん、手に心に霊にも□

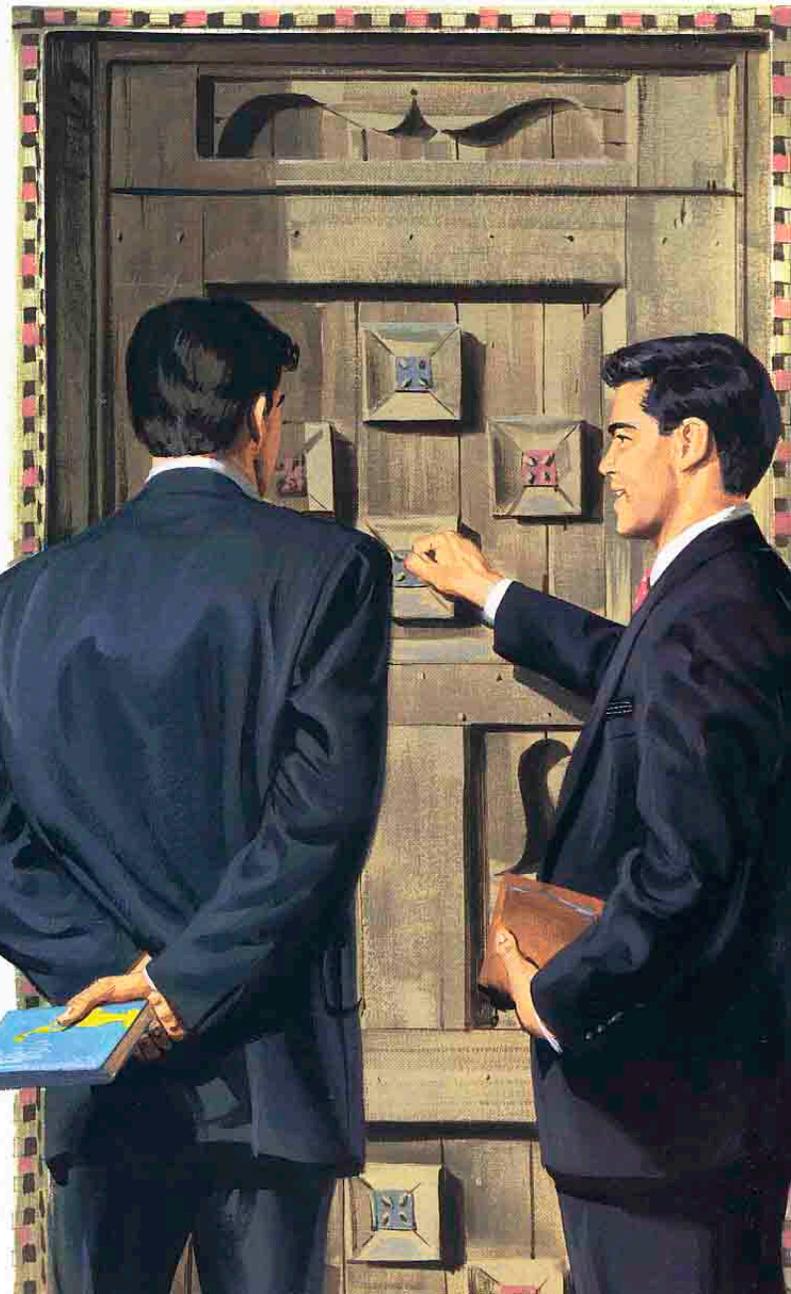
#### 注

1. J・スペンサー・コーンウォール, *Stories of Our Mormon Hymns* 『モルモンの賛美歌物語』 p.173
2. 「シオンの若者、真理を守り」『賛美歌』163番

#### ホームティーチャーへの提案

1. 今日こんにちは新たな問題や誘惑を抱える時代かもしれません。しかし、大勢の末日聖徒の若人は、信仰に忠実に生きようとしています。
2. 末日聖徒の若者の言動は、現代の風潮からすればしばしば例外と見なされます。しかしそれゆえに、世界中の心ある人々はかえって称賛し、注目し、感謝するのです。
3. 人々を驚かせ、彼らの心に信仰をわき立たせるもう一つの集団があります。それは、全世界で働いている末日聖徒の宣教師です。
4. 義にかなった若者の持つ力について、モルモンはこう語っている。「彼らは皆、……非常に勇敢であり、……託されたことは何であろうと、いつでも誠実に果たす者たちであった。……彼らは神の戒めを守り、神の前をまっすぐに歩むように教えられていた……。」(アルマ53：20-21)

その若い宣教師は、毎日、ドイツ語の文法書を手に取って、表紙にある西ドイツのローテンブルクの古風な趣のある家の写真にじっと見入っていました。その青年はこう決心していました。「この家を訪問して、そこに住んでいる人にきくとこの真理を伝えよう。」



# 伝道中の帰郷

スリー・デビ・コムー

**姉**のスワルーパは、わたしが15歳のとき、インドのラジャームンドリで伝道していた末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師たちに出会いました。間もなく姉は宣教師から福音を学ぶようになりました。教会の名称は奇妙に思えましたし、英語もあまり理解したり話したりできなかつたのですが、わたしも何度か宣教師からレッスンを受けました。福音の教えに感動した姉とわたしは、やがてバプテスマを受けました。後に弟と妹もバプテスマを受けました。

5年後、わたしはデリーで働く専任宣教師と会いました。そしてすぐに、「わたしも伝道に出たい」と思うようになり、1993年8月にインドのバンガローレ伝道部で伝道するよう召されました。しかし、父の反対を押し切って伝道に出たので、父のことがとても気がかりでした。

伝道期間も半ばを過ぎたころ、伝道部長のクルチャラン・スィング・ギル長老に両親のことを話しました。当時すでに、わたしの故郷にも宣教師が赴任していましたが、両親は現地の言葉しか話せないため、英語を話す宣教師からはレッスンを受けられませんでした。わたしは、福音の下で、わたしたち子供が両親と結び固められる日を切望していました。

話し終えると、ギル部長は直ちにラジャームンドリで翻訳の仕事を手伝う責任をわたしに与え、両親に教えられるようにしてくれました。わたしは何年も、「真理を悟れるように両親の心を和らげてください」と天父に祈っていました。20時間余り列車にゆられて到着したとき、祈りが聞き届けられたことを悟りました。父は気持ちを

変え、宣教師としてのわたしにとっても協力してくれるようになっていたのです。

1週間後、わたしは両親に最初のレッスンをしました。母と結婚するときにキリスト教に改宗した父が、天父とイエス・キリストに愛と感謝を伝えるのを見られたのはすばらしい経験でした。さらに両親は、『モルモン書』を受け入れ、ほかのレッスンを受けることにも同意してくれました。わたしの心は喜びで満たされました。

しかし間もなく、父は家を建て始め、教会について学ぶ時間がほとんど取れなくなってしまいました。断食と祈りの力を知っていたわたしは、父が残りのレッスンを受けるための時間を取れるように断食し祈ろうと決心しました。すると間もなくして残りのレッスンを続けられるようになったのです。

両親はバプテスマのチャレンジを受け入れてくれました。巡回宣教師が両親に面接した後で、わたしは心配して尋ねました。「どうでしたか。」

「二人とも準備はできていますよ」と巡回宣教師は答えてくれました。

どんなにうれしかったことでしょうか。バプテスマ会の間も、御霊<sup>みたま</sup>を強く感じ、喜びのあまり泣いてしまいました。こうして、父コムー・アポ・ラオと母コムー・マニは1994年6月のとても暑い日にラジャームンドリでバプテスマを受けました。ついにわたしの家族は真実の教会で一つになれたのです。

両親のもとにわたしを宣教師として送ってくださった天父と伝道部長に心から感謝しています。□





# 重荷を 分け合う

ジャネット・トーマス

ルウエーのドランメンの町のすぐ近くに、スピラレン山と呼ばれる山があります。一見、普通の山のように見えますが、中は空洞です。山陰に隠れた場所には昔の採石所跡があり、掘り残された岩板が、らせん状のトンネルを形造っています。今ではこのトンネルは、頂上まで続く車道に変わり、町や





ノルウェーの祭司とローレルたちが日ごろ直面する問題は、2日間のユースカンファレンスの間に坂を上りながら運び上げた石にたとえられる。彼らは重荷を分け合うときに人生がより良くなることを学んだ。

海を概観する景色を見物に来る人々に利用されています。

最近、ノルウェー・オスロステークの祭司とローレルが43人集まり、祭司・ローレル大会の一環としてこのスピラレン山に登りました。これはステークが毎年開く普通のユースカンファレンスとは別に行われました。このステークには昔からすべての祭司とロー

レルを集めて、2日間楽しい活動や真剣なディスカッションをする伝統があるのです。

大会の最初の晩は、地元の教会指導者たちが青少年に加わってパネルディスカッションを行い、祭司やローレルから出された福音に関する質問に答えました。「質問はどれも興味深かったです」と、オスロ第3ワードのヤラ

ン・ルーサーは話します。友人のクリスチャン・タレイ・ギルセスも同じ意見です。「指導者の答えも良かったですよ。」その後で、青少年は食事とダンスを楽しみました。

翌朝は皆でスピラレン山に登りました。このハイキングが単なる楽しい活動以上のものだという事はすぐに明らかになりました。皆初めから気がつくべきでした。このハイキングそのものが、実物を用いたレッスンとなるのです。

まず祭司とローレルたちは全員、家族グループに分けられ、グループ名はそれぞれスミス、ヤング、キンボールといった教会の歴史に登場する姓にちなんで付けられました。各グループはほかのグループと時間の間隔を置いて登山を始めるように指示を受けました。最初の休憩所では水が出されました。すべては順調に思えました。次の休憩所にはジュースがありました。そして次第にハイキングの意味が明らかになり始めました……家族単位で行動していると、褒美が段々良くなっていったからです。

フレドリックスタッド支部のヨン・グンダーセンは最初の休憩所でハイキングが象徴するものを理解したと言います。「鉄の棒につかまりなさいと言われたときに、分かり始めました。」最初の休憩所は星の栄えと考えられます。次の休憩所は月の栄えです。森を抜けて頂上近くの駐車場に出て来ると、家族たちは、旅ももうすぐ終わり、日の栄えの褒美をもらえると期待していました。しかし、この旅はまだ終わ

ってはいなかったのです。

各家族は、大きな石が5個入った手押し車を与えられ、引き続き道を登るように指示されました。笑いながら冗談を言い合って進んで来た彼らの中で、最後の道のりが大変になると思った人はだれもいませんでした。力の強い男の子が一人いれば手押し車を楽に押して行けると思ったのです。しかしそのような安易な考えも、頂上への最後の登坂を目にした途端に消え失せました。その坂は勾配がとて急で滑りやすく、荷物なしで登るだけでも大変に思えました。ましてや石を積んだ手押し車を押して登るとなると非常に困難な作業です。

それぞれの家族で登り切る方法を考え出しました。ホックサンド支部のエルレイ・ジーン・ヘンドリクセンは言います。「ぼくたちは荷を分け合うことにしました。手押し車から一人1個ずつ石を取り、残った二人が空の手押し車を運びました。結果は成功でした。その方法を採用したのは、ぼくたちの家族グループだけでした。」

不平を言う人はだれもいませんでした。皆が協力して自分たちの石を頂上まで運ぶ方法を見つけたのです。そしてついに褒美が与えられました。暑さのため疲れた皆は、休んでから眼下に広がる美しい風景を眺めました。彼らは全員が頂上にたどり着いたことを喜び合い、その頂上で石に象徴された重荷を降ろすことができたのです。彼らは運んだ石を積み重ねて即席の記念碑を作りました。それから皆で「体の食物」である昼食を食べ、「霊の食物」

として天の事柄についての話者のお話

に耳を傾けました。  
ドラメンワードのオーボ監督は、大変な思いをしたグループもあったことを説明してくれました。グループで荷物を運んでいて、しばらくの間は何もせず手ぶらで歩く人もいたからです。しかし、個人のチャレンジに差はあっても、最後には必ず全員が頂上にたどり着けるように皆で力を合わせなければなりません。イエス・キリストがわたしたちの重荷を軽くしてくださいと約束された、とオーボ監督は指摘します。自分の証を得ることによって、わたしたちは頂上に達する力を得られるのです。

ハイキングは、大会を締めくくりに申し分のない活動でした。社交的な面から見ても、とても楽しい活動でした。オスロ第2ワードのキャスリーン・オブダールはこう言います。「いちばん楽しかったのは、ノルウェーの様々な所から集まった同年代の人たちと会い、今までにない方法で知り合えたことです。」

「そのとおりです」と、同じくオスロ第2ワードのカティンカ・スベンドセンは言います。「わたしたちは皆同じような問題を抱えています。特に学校では、末日聖徒であるわたしたちが高い標準を持っていることを認めてもらえない、という共通の悩みがあります。」

ドラメンワードのシーテル・ベデルセンは言います。「ここでは宗教に関して自分と同じ姿勢と観点を持つ人たちに会えます。一緒に活動できて楽しいです。」



祭司やローレルたちは、頂上に築いた記念碑には単なる石よりずっと大切な意味がある、と知っている。この記念碑は、ともに協力して働くときに達成できるものすべてを象徴している。

若者たちから最も深遠な言葉が返ってきたのは、祈りの答えや彼らの証あかしについて尋ねたときでした。彼らは、救い主だけが与えてくださる穏やかで静かな平安について語ってくれました。ヤランはこう言いました。「ぼくはモロナイ書第10章4節を読みました。そこには『モルモン書』に書いてあることが真実かどうか神に尋ねれば、必ずこたえてくださると書いてあります。

ぼくは試してみたんです。すると真実であるという気持ちを感じました。温かい良い気持ちでした。」

オスロ第2ワードのハネ・アクセルセンも、『モルモン書』を読んで強烈な印象を受けました。「宣教師たちから最初のレッスンを受けたばかりのころ、勉強して祈らなければならないと教えられたときには特に何も感じませんでした。それで、試してみたんです。祈って勉強してみました。その後の出来事にはほんとうに驚きました。まるで『モルモン書』が自分のために記されたように感じたのです。ほんとうに分かりました。とても親しみやすく、正しい書物だと感じました。」

祭司・ローレル大会に参加することは、「ここノルウェーにシオンを築く助けとなる」とモスワードのイダ・ポドホルニは言います。「わたしたちは世にあって世のものとならない方法を学びます。良き友人たちに感謝しています。」

ステーク若い女性会長のデゼリー・ベアルコーは次のように言います。

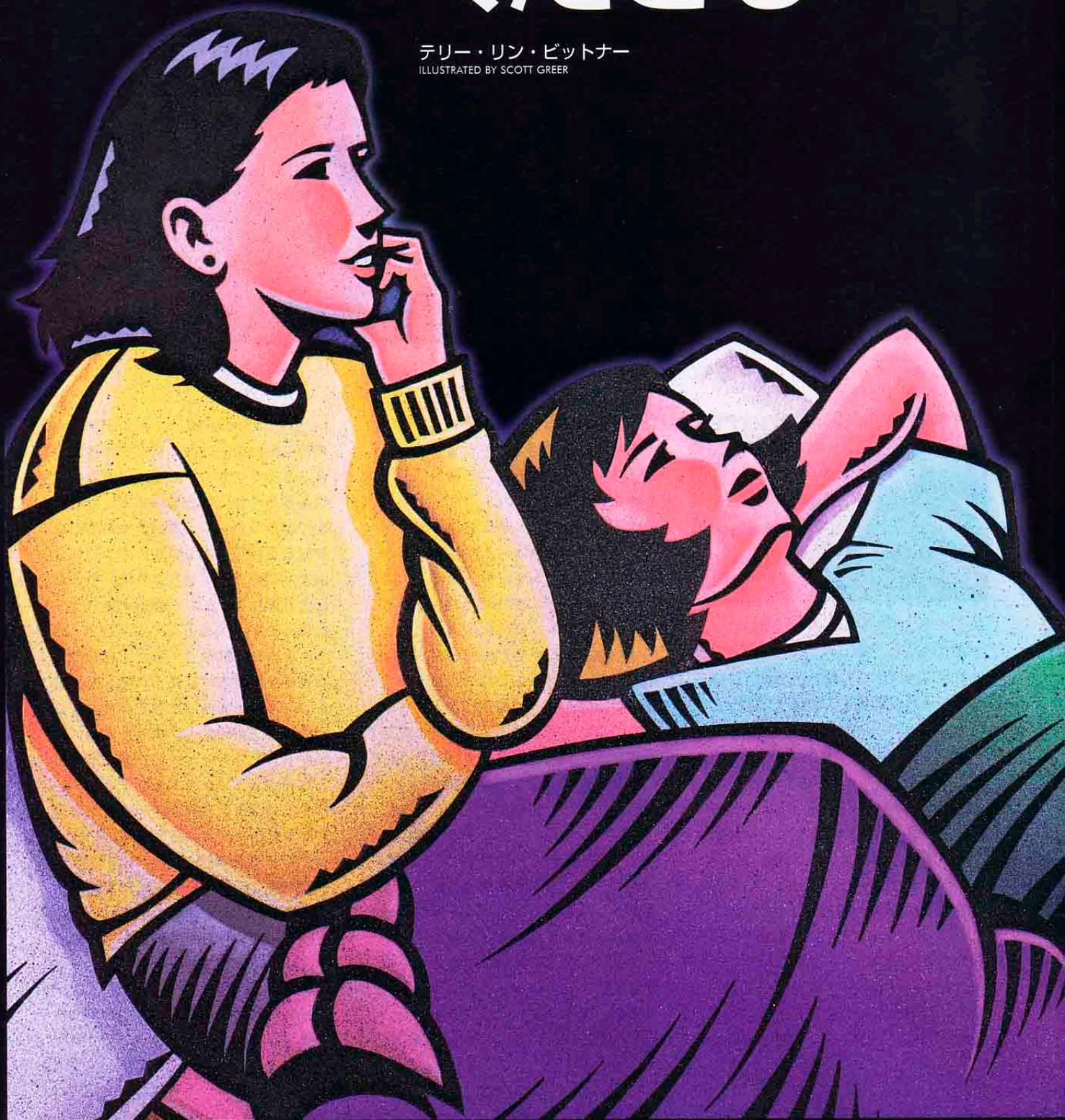
「わたしたちの目的は、青少年を力づけることにより、彼らが互いに励まし合えるようにすることです。実際彼らはもうそれを実行しています。夜遅くまで起きて語り合っています。そんな時間はかけがえのないものです。教会内に友情を見いだせなければ、彼らは教会外の友人にその友情を求めるようになります。」

それから間もなく、頂上を離れ現実の世界へと戻る時間になりました。しかし、下山しているときも、頂上に築いてきた記念碑には、積み上げられた単なる石よりもっと大切な意味があると知っていました。エルレイ・ヘンドリックセンはこう説明します。「あの記念碑はわたしたちが皆同じことを達成し、互いに助け合って頂上にたどり着いた象徴です。でも、まだ旅が終わったわけではありません。わたしたちは成長し、常に一緒に過ごし、忠実であり続けなければならないのです。」

ノルウェーの山頂で、この10代のグループは幾つかの答えを見つけたのです。□

# 神はこたえて くださる

テリー・リン・ビットナー  
ILLUSTRATED BY SCOTT GREER



□ ーレルの仲間とコロラド川にキャンプに行った日のことです。その日わたしには大切な発表がありました。宣教師からレッスンを受けることにしたという発表です。

新しくできた友人たちが喜びのあまり大声で騒ぎ立てたので、「あまり期待しすぎないでね」と言葉を挟んで注意しました。そして、「バプテスマを受けたりなんかしないから」と告げました。「あなたたちの信じていることをもっと系統的に学びたいだけよ。」友人たちはすべてを心得ているような顔で、お互いにほほえみを浮かべました。

週末が過ぎていく中で、わたしは末日聖徒に囲まれて生活するだけでも、数多くのことを学べるということに気づきました。それまで宗教を模索し、いろいろな信仰を持つ人々と出会いましたが、モルモンの人々についてまず第一に気づいたのは、彼らがわたしの知っているどの教会の人たちよりも頻繁に祈るということでした。祈りの方法も違っていました。モルモンは、わたしの祖父が持っていたような祈りに関する手引き書も持っていませんでした。神に向かって語りかけるのです。また教会で学んだことに従って生活していました。日曜だけの宗教ではありませんでした。24時間、毎日心に向ける宗教という点に、わたしは心を引かれていました。

夕方になり、わたしたちは寝袋を広げて、夜空にきらめく星の美しさに感動しました。そんなとき女の子たちが次のような質問をし始めました。「教会のことはどのようにして知ったの。」「これまでどこかの教会に集っていたの。」「教会で教わったことについてどう感じた。」

最後の質問には、どう答えていいかわかりませんでした。彼女たちを傷つけることなく、自分の感じた戸惑いをどう説明したらいいのか分からなかったのです。この教会ほどわたしの心を揺り動かした教会はありませんで

した。わたしは何時間も時間をかけ、末日聖徒の教義について思い巡らし、どの教えが真実かを推測しようとしていました。わたしは何でも推測で物事を判断するのが大嫌いでした。真実

を知りたかったのです。しかし、この教会が真実であることを調査によって証明する方法はありませんでした。

わたしはため息をつき、「難しいわ」と本音を漏らしてしまいました。「あなたたちの教会の教えは、ほかの教会の教えとはあまりにも違いすぎるから、何がほんとうかを知るのに時間がかかると思うの。」

そのとき、一人の女の子が静かにこう言いました。「何がほんとうか、わたしには分かるわ。」彼女は何のためらいもなく、自信をもって証をしました。

わたしはある気持ちを感じました。10歳のとき、ロサンゼルス神殿を訪問し、最初の示現の話聞いたことがありましたが、そのときに感じたのと同じ気持ちでした。また、感動的なレッスンを受けたときに感じた気持ちとも似ていました。その気持ちにどんな意味があるのかは分かりませんが、何かとても大切なものではないかと思いました。そのときです、突然何にも増して「知りたい、単なる推測ではなくほんとうに知りたい」という思いが込み上げてきたのです。

わたしはこのように尋ねました。「あなた、知っていると言ったけど、どうやって分かったの。」

「祈ったのよ。ジョセフ・スミスのこと聞いたでしょ。ジョセフ・スミスが真理を探し求め、森へ行って祈ったときのこと。」

わたしはうなずいてこう言いました。「ええ聞いたわ、それに祈って見たわ。でも、神はわたしのところへやって来て、答えを教えてなんかくださらないでしょう。」

「そうね、たぶん。でも、神様が個人的にわたしたちのところを訪れ、わたしたちに直接語りかけてくださる必要はないのよ。神様はいつでもわたしたちに語りかけていらっしゃるわ。だから、わたしたちはただ耳を傾けられるようになればいいの。」

わたしははっとして身を起こしました。「わたしも祈ったことがあるし、ほかの教会でも神は祈りにこたえられると教わったわ。でも、どのように答えを与えられるか教えてくれた人はいなかった。あなたが言ったのは、この教会が真実なものかどうか尋ねたら、わたしにも神はこたえてくださるということなの。」

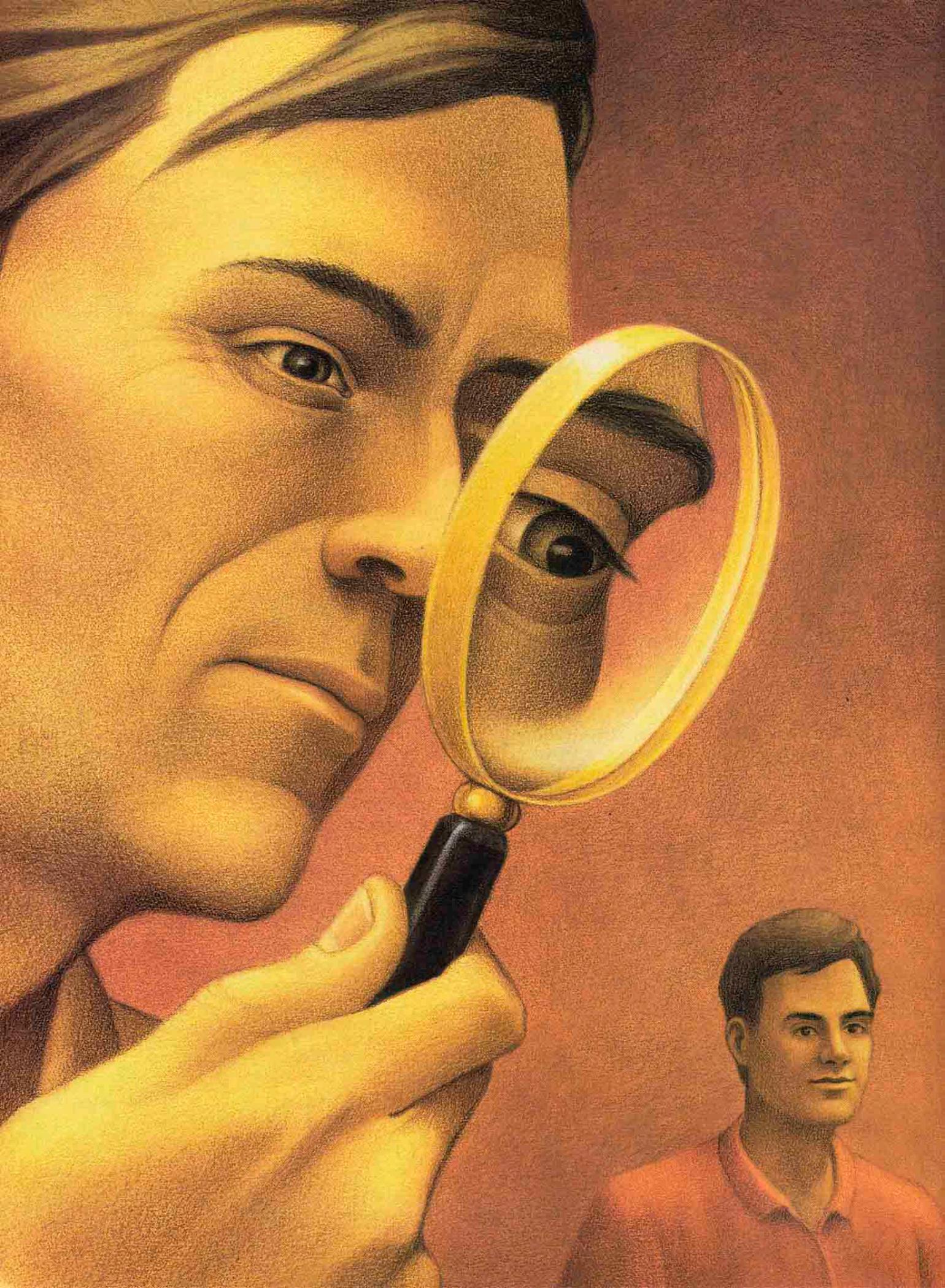
「もちろんよ。わたしもそうやって答えを得たんだから。」

わたしは驚いてしまいました。「そんなに簡単に答えが分かるんだったら、皆があなたの教会に入るんじゃない。」

友人たちは笑いました。それから証を得る方法について教えてくれました。何か月かたって、わたしは証を得ました。そして17歳の誕生日が終わるとすぐに、バプ

テスマを受けました。友人たちの言ったことは正しかったのです。天父はほんとうにわたしに

語りかけてくださいました。わたしはただ耳を傾けるだけでよかったのです。□



他人のあら探しという霊的な危険は、  
知覚作用をゆがめ、進歩を停滞させ、  
慈悲を受けられなくなるなど一連の悪  
影響をもたらします。

# あら探しという 霊的な危険

マーク・D・チェンバレン

**カ**ーラとティム\*が現在の家に移って来たのは2年ほど前のことです。近所の人々ともかなり気心が知れて仲良くなってきました。けれども二人は新しい友人たちと仲良くなればなるほど彼らの欠点も見えてくることに気づきました。家の手入れの仕方から子育ての方法に至るまであらゆる事柄について欠点だけがやたらと目について仕方ありません。二人の間の会話には近所の人々の欠点が話題に上るようになり始めました。時には夜、寝室に入ってから二人はその日、気になったささいなことについて話すようになっていました。

所は変わって、都会を外れた地域のある小さなワードに、何年も前から仲違いをしている2軒の家族がいました。何が原因でそうなったのかははっきり覚えている人はいませんでした。片方の家族の父親がもう一方の家族の父親に何か言ったことが発端でした。最初の言葉自体には何の悪意もなかったのです。その言葉が誤解され、数日のうちにとてつもなくゆがめられた話が幾つも生まれて広まりました。すっかり感情的になり、周囲の人々は二つに分かれていずれかの家族を後押しするようになりました。このためワードの活動や集会から御霊が遠のいていました。地元の指導者たちは勧告や励ましを与えようとしたのですが、そのような行為すらも誤解を招く

\*実名ではありません。

とがしばしばでした。現在では1軒の家族は子供から孫に至るまで教会へ集うのを拒否しています。何げなかった一言が、あら探しと批判という炉に、火をつけてしまったのです。

近代の預言者と聖文はともに、あら探しや他人を裁くことが、たとえそれが二人の間の問題であっても、近所に住む何軒かの家族の間であっても、あるいはワード全体であったとしても、霊的な危機につながる場合があることを警告しています。

## ゆがめられる知覚作用

あら探しは様々な面からわたしたちの知覚作用をゆがめます。まず第1に、自分が優れた人間だとする誤った見方をします。他人の弱点に心が奪われている人は自分の欠点に目が届きません。これはいわば霊的な遠視の状態です。つまり、他人の欠点に焦点を合わせてしまうため、霊の目はもっと近い自分の欠点を見ないようにするというごまかしを始めます。

救い主はマタイによる福音書第7章3節でこの奇妙な状態について述べていらっしゃいます。「なぜ、兄弟の目にあるちりを見ながら、自分の目にある梁はりを認めないのか。」

わたしたちは批判する場合に、相手よりも自分の方が優れていると考えているわけですが、実は彼らもわたし

たちと同様に主の目に大切な存在なのです。預言者ヤコブはこの点を明らかにしています。

「さて、わたしの同胞よ、わたしは高慢についてあなたがたに語った。神から与えられたものを心の中で誇って、隣人を苦しめ悩まし、虐げてきた者よ、あなたがたは今そのことをどのように考えているのか。

このようなことは、すべての人を造られた御方にとって忌まわしいことであるとは思わないか。神の目には、人は皆等しく貴い存在である。」(『モルモン書』ヤコブ2：20-21)

もし自分が隣人よりも優れていると考えているなら、わたしたちは「罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなって」いることを忘れていた虞があります(ローマ3：23)。

他人の欠点をあげつらうときに陥りやすい過ちは、人を外見で判断してしまうことです。相手の心にある思いや意向を見分けられなければ、目に見えるものだけで、あるいは間違っただけの推測の下で判断せざるを得なくなります。スペンサー・W・キンボール大管長はこのように述べています。「もし彼らの行為の背後にある意味や動機を見抜こうとする際にわたしたち自身の推量を当てはめるとすれば、わたしたちは間違っただけの裁きをすることになる。」(『救しの奇跡』p.276)

わたしたちにある小さな弱点の多くは自分にしか分からず外から見えないため、わたしたちは、罪のあることが明白に分かる人々と自分を比べることによって、自分を優位な立場に置こうとする時があります。律法学者やパリサイ人たちの場合が、それであったようです。彼らは姦淫した女に石を投げつけようとしていました。しかしイエスが「あなたがたの中で罪のない者が、まずこの女に石を投げつけるがよい」(ヨハネ8：7)と言われると、訴える者たちは言葉もなく去って行きました。

律法学者やパリサイ人の偽善を非難するのはたやすいですが、現代のわたしたちも彼らとあまり違ってないかもしれません。これは著名人、政治家、一般人の隠された汚点を暴くテレビ番組やセンセーショナルな話題を満載した雑誌の増加に表れています。このような雑誌やテレビ番組が好評を博すのは、わたしたちはこうした腐敗した人と自分を比較して、あたかも自分が光輝く聖者であるかのように見せたいという欲求があるからでしょう。わたしたちの目の前に暴露された他人の罪を見ることによって、自分の欠点を意識の外に置いているのです。悪者に選ばれた人を非難すれば、自分の弱点はささいなものに変わってしまっているように見えるので、改めて

問題にする必要がなくなるのです。

他人をあざけり、こちらの罪は人には分からないと思いついでいるなら、わたしたちは律法学者やパリサイ人と同様、偽善者です。イエスはそのような人を「白く塗った墓に似ている。外側は美しく見えるが、内側は死人の骨や、あらゆる不潔なものでいっぱいである」と呼ばれました(マタイ23：27)。

最後に、他人を批判し、あら探しをすると、わたしたちは自分の弱点を他人の中に見ることが多いため、こちらの知覚力がゆがんでいきます。使徒パウロはこうした傾向に対して警告を発しています。「だから、ああ、すべて人をさばく者よ。あなたは弁解の余地がない。あなたは、他人をさばくことによって、自分自身を罪に定めている。さばくあなたも、同じことを行っているからである。」(ローマ2：1、強調付加)

もしわたしたちが自分の欠点を他人の中に見ているのだとすれば、人に対するこちらの態度は、わたしたちが自分の欠点をどのように考えているか写し出しているはずで、次の賛美歌が投げかけている助言は示唆に富んでいます。

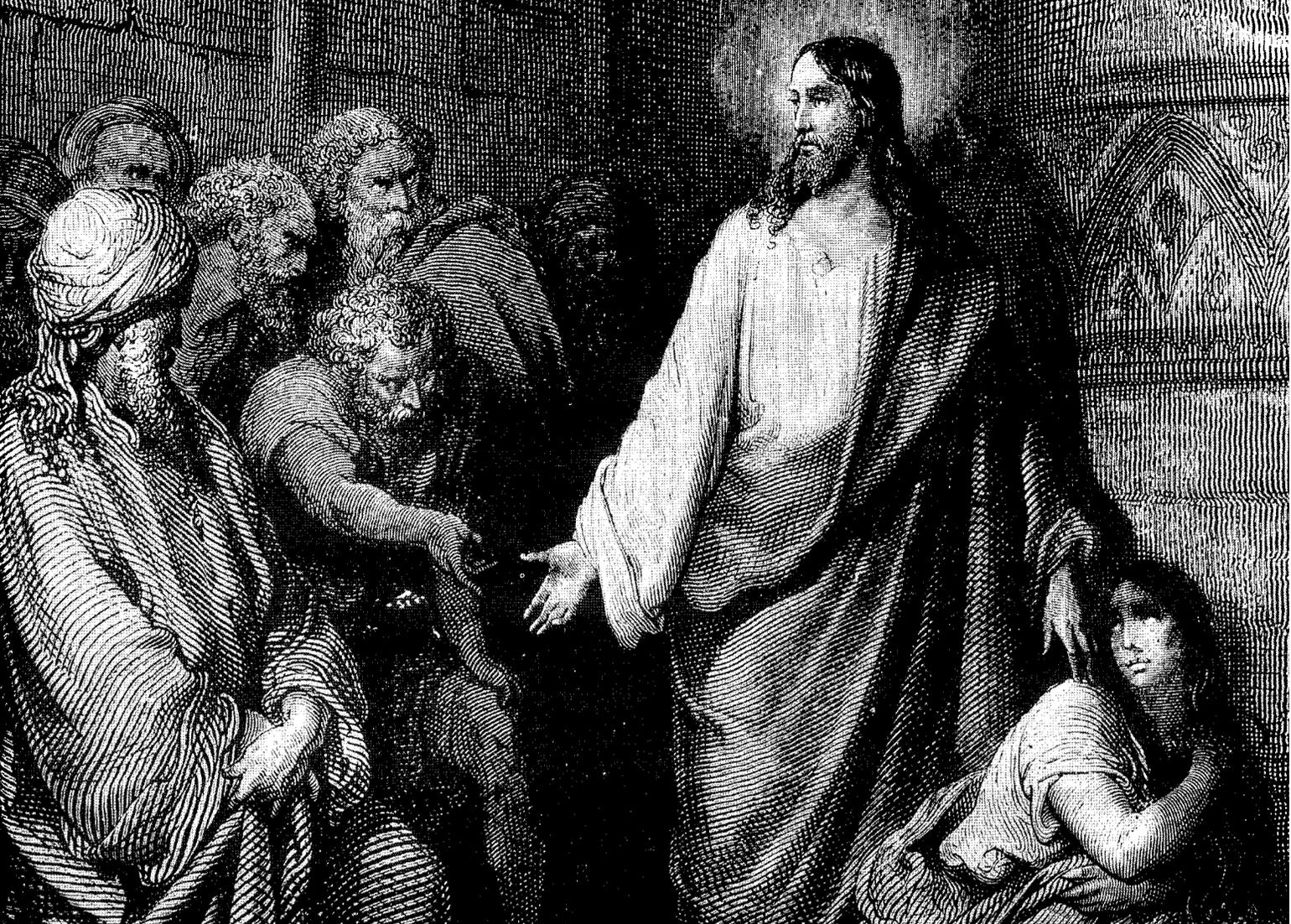
人の過ちを <sup>あやま</sup>責めるときは  
まず心に聞け <sup>おの</sup>己れはいかに  
(『賛美歌』147番)

## 進歩を停滞させる

あら探しの第2の危険は個人の進歩と霊的な進歩を停滞させることです。わたしたちは神に会う用意をするために(アルマ34：32参照)この地上で生活しているのですが、他人のあら探しに心を奪われていると、この大切な務めがおろそかになってしまいます。他人を不正に裁いていると、自分の欠点が見えなくなるだけでなく、それらの欠点を改める努力もしなくなるという危険な状態に陥ります。

主が偽善を嫌われたのは恐らくこのためです。独善と自己満足は判断を誤らせやすいのです。というのは、もしわたしたちが自分の問題は他人の問題よりも深刻ではないと考えて慢心してしまうと、永遠の命は他人との比較において得られるのではない、という点を見失ってしまうからです。

イソップ物語に登場する野うさぎは、このようなうぬぼれと自己満足を示す例として古くから語られてきました。この物語で、野うさぎと亀は競走することになりました。野うさぎは大急ぎで駆け出して行って、のろのろと



イエスは彼らに言われた。「あなたがたの中で罪のない者が、まずこの女に石を投げつけるがよい。」(ヨハネ8：7)

歩く亀をはるか遠くに引き離します。やがて野うさぎは疲れてしまいます。勝利を確信したため、止まって休みます。野うさぎは眠ってしまいました。着実に歩いてきた亀はやがて静かに野うさぎを追い越して、勝利を収めます。

野うさぎの敗北は、レースを完走する能力の問題ではありません。むしろ楽々と完走する能力を持っていました。問題は、競走に勝ったと思込んだ点にあります。わたしたちも愚かな野うさぎのように、自分はもう成し遂げたと考えるとしたら、努力する必要がなくなってしまいます。

けれども、わたしたちはまだゴールのテープを切ったわけではありません。今、止まって眠ってしまったら、

これまで霊の成長の道をどれほど長く歩き続けてきたとしても、決勝点までは到達していません。霊的な競走をどれだけ走ってきたかと振り返ることに心を奪われた瞬間から、さらに成長を続けるためのエネルギーが横にそれてしまい、何のために走って来たのかを見失ってしまうことにもなりかねません。

野うさぎのうぬぼれと自己満足は、取税人のあら探しをしたパリサイ人に見られます。

「パリサ人は立って、ひとりでこう祈った、『神よ、わたしはほかの人たちのような貪欲な者、不正な者、<sup>どんよく</sup> 姦淫かんいんをする者ではなく、また、この取税人のような人間でもないことを感謝します。

わたしは1週に2度断食しており、全収入の10分の1を

ささげています。』(ルカ18:11-12)

パリサイ人は、自分が目の中の梁を見過ごししている点に、気づきませんでした。つまり、靈的に眠っていました。続く節から、明らかに自らの罪を認め、神に告白していた取税人は高慢なパリサイ人よりも、その時点では、はるかに靈的であったことが読み取れます。

「ところが、取税人は遠く離れて立ち、目を天にむけようとしないうで、胸を打ちながら言った、『神様、罪人のわたしをおゆるしてください』と。

あなたがたに言うておく。神に義とされて自分の家に帰ったのは、この取税人であって、あのパリサイ人ではなかった。おおよそ、自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるであろう。」(同13-14節)

パリサイ人や野うさぎのように、自分はやり遂げたと考え始めたときから、わたしたちは自分の弱点を克服する努力よりも、他人より自分が優れているという思い込みが心を奪われてしまうのです。ほかの人と比べてわたしはよくやっているから問題ないと安心して自分の気にいいたら、ニーファイが与えている警告を思い出す必要があります。サタンはこのような方法で「人々をだまし、巧みに地獄へ誘い落とす」のです(2ニーファイ28:21)。

### 慈悲を受けられない

最後に、他人を容赦なく裁いていると、自分自身も同情や慈悲を受けられなくなります。

わたしは、専任宣教師に召されたばかりのときにあった神の業に対する熱意が、4か月も過ぎたころにはかなり衰えてしまいました。同僚に対する理解や憐れみの気持ちを抱けなくなっていました。わたしたちが宣教師として成功していないことにひどく落胆していました。数か月前まではあれほど強く持っていたはずの自信が、ことごとく消えてしまったのです。

伝道部長との個別面接で、わたしは自分が宣教師としてふさわしくないと感じ、落胆していることを打ち明けました。「宣教師の務めに自信を持つにはどうしたらいいでしょうか」と伝道部長に尋ねました。

伝道部長の答えにはほんとうに驚きました。伝道部長はわたしに自信を持たせるために、どれほど大切な業に従事しているかなどは言いませんでした。積極的な考え方の効力を教えたわけでもありません。伝道部長はほかの人々、特に一緒に働く同僚たちに対するわたしの気持ちについて尋ねました。

「あまり忍耐強い方ではありません。」わたしは素直に認めました。「伝道を始めたときはやる気まんまんで

した。ところが思いどおりに事が進まないといらいらするようになりました。』

伝道に出る前は、正直言って、だれとでもうまくやっていたかと思っていました。けれども実際は逆境に立たされると、しばしば人を批判し、裁いている自分に気づいたのです。

伝道部長はよく知られた聖句を読んでくれました。

「またあなたの心が、すべての人に対して、また信仰の家族に対して、慈愛で満たされるようにしなさい。絶えず徳であなたの思いを飾るようにしなさい。そうするときに、神の前においてあなたの自信は増し、……

聖霊は常にあなたの伴侶と……な〔る〕であろう。」(教義と聖約121:45-46)

この聖句とわたしが置かれた状況との関連性についてはすぐに分かりました。わたしは宣教師としての自信を失っていました。ところがこの聖句は神の前に自信が増すと約束しています。自信を失っているわたしに対して、この聖句は慰め主が常に伴侶となると約束してくれています。

では、どうすれば確信と勇気と自信が得られるのでしょうか。絶えず徳高い思いを持つほかに、すべての人に対して「慈愛を持つこと」がわたしには必要でした。

同僚も含めて他人を評価するときに、わたしは批判的で非難めいた見方をしていました。慈愛の心を持たなかったために、自信を生み出す源を断ち切っていました。その日に学んだ教訓はかけがえのないものでした。わたしは批判やあら探しによって人を傷つけることを、何年も前から知っていました。しかしそのときに初めて、わたしの非難めいた態度が自分自身をも傷つけていたことが分かったのです。伝道部長との面接以降、人々に慈愛を示すときに自信が生まれ、自分の欠点に妨げられることが少なくなるのを何度も実感しました。つまり人を救そうと努力すればするほど、自分が救されていくのを感じたのです。

慈愛と憐れみというキリストが持っておられる特質は、生活のある特定の分野で、一時的に働くものではありません。周囲の人々のささいな欠点を批判しながら、自信を持ち、確信を持って自分を正しく評価することはできません。

だれもがこの世で困難、弱点、欠点を経験するのは、他人に対してもっと憐れみを示す機会を持てるようになるためかもしれません。すべての人が人間としての弱さを持っていることを忘れて互いに非難の指を向け合うとしたら、それは悲劇としか言いようがありません。□

# もう一度、快く迎えてくれるかしら

アウレリア・S・ディエソン

ILLUSTRATED BY DILLEEN MARSH

**教**会に入ってから、わたしはフィリピンの小さな支部に集いました。会員が固いきずなで結ばれ、何をするにも一致して働く支部でした。

その支部は次第に大きくなり、成長していきました。いすも聖餐式用のテーブルも、新しくなりました。その後、わたしたちは広くゆったりした別の建物へ引っ越しました。そこには新品のオルガンまでありました。それから3年たって、将来の集会所を建築するための土地も購入しました。

このように成長していく中で、支部の団結力を試されることが幾度か

ありました。わたし自身も、あるうわさ話を耳にしたことから感情を害し、教会に行かないと決心し、6週続けて日曜日の集会にまったく出席しなかったことがあります。ただ、心の中では行きたいと思っていました。特に聖餐を取り、聖約を新たにしたいという気持ちがありました。

ある日のこと、わたしはひざまずき、力と勇気、そして導きを与えてくださるよう主に祈り求めました。まだひざまずいていたときに、床の上にある1冊の書物が目に入りました。それは、ほったらかしにされ、ほこりにまみれた聖典でした。わたしは、その聖典を

手に取ると、どこかに自分の心の痛みを癒してくれる聖句が記されていることを願いつつ、ページをめくり始めました。すると、教義と聖約第136章29節から30節の言葉が目にとまりました。「あなたは悲しければ、心が喜びに満ちるように、主なるあなたの神に呼び求めて嘆願なさい。あなたの敵を恐れてはならない。」

その聖句を読み終えると、心に平安を感じ、勇気がわいてくるのを感じました。そして、教会に戻ろうと決心しました。

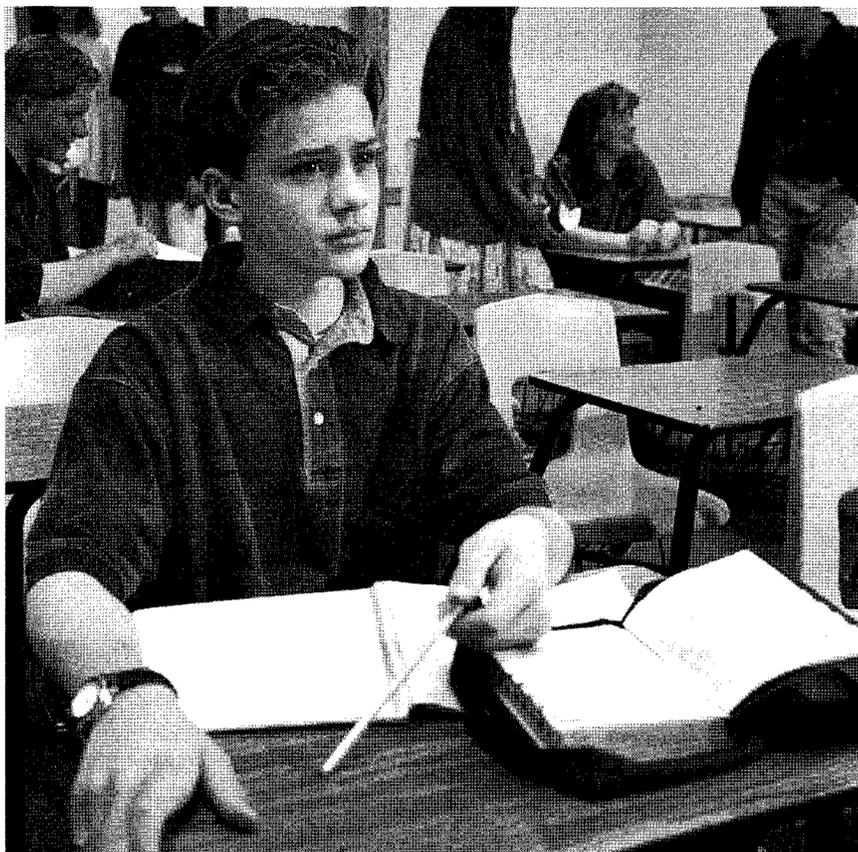
しかし次の日曜日、教会の近くまで来て、ある心配が頭をもたげました。「支部の人たちはもう一度、快く迎えてくれるかしら。後ろの方からわたしのことでひそひそ話が聞こえたりはしないかしら。それともまったく無視されるかしら。」礼拝堂のドアが近くなるにつれて足取りは重くなりました。

そのとき、だれかが優しく肩をたたきました。振り向こうとすると、別の人が柔らかく包み込むようにわたしの肩に手を回しました。それからもう一人の人が手を伸ばし、わたしの手をしっかりと握り締めてくれました。さらにほかの友人も、わたしが戻って来たことを喜び、温かいほほえみを浮かべながら、ドアから飛び出して来ました。

開会の賛美歌である「試しは多くも」(『賛美歌』69番)を歌っているうちに、心は平安な気持ちで満たされていきました。心の傷やわだかまりも次第に消えていきました。喜びの涙で目がかすみ、賛美歌の歌詞が見えなくなりました。わたしは目をしっかりと閉じ、感謝の思いを込めてこうささやきました。「父なる神様、教会に戻れるよう、わたしを導いてくださり、ありがとうございます。」□



# わたしは教会員です。 それなのに、なぜあまり幸福ではないのでしょうか



PHOTOGRAPH BY MATT REIER

「福音は人を幸福にする」という話をよく聞きます。わたしは教会員としてしなければならぬことは皆、実行しているつもりです。でも時々、幸福ではないと感じます。どうしてなのでしょう。

本誌の答えは問題解決の一助として与えられたものであり教会の教義を公式に宣言するものではありません。

## 回答

この質問に回答を寄せてくださった読者の多くが、幸福というのは、ただ単に教会員だからという理由で、自動的にもたらされるものではない、と証しています。むしろ、信仰を積極的に働かせること、つまり、戒めに従ったり、聖文を研究したり、定期的に祈ったり、人に奉仕をしたりすることなどによってもたらされると言っています。

フィリピン・カルクーカンステー

ク、ユニバーシティ・ヒルワードのシンシア・ベロス・エカオは、その回答の中で、ジョセフ・スミスの言葉を引用しています。「神はわたしたちが幸福を得られるよう、すなわち、神の造られたものがごとく幸福を得られるよう、計画された。」(Teachings of the Prophet Joseph Smith『預言者ジョセフ・スミスの教え』ジョセフ・フィールディング・スミス編、p.256)

預言者ジョセフ・スミスは、さらに、次のように言っています。「幸福を得ることがわたしたちの存在する目的で

あり、目標である。もし幸福につながる道を歩むなら、そこに到達できることだろう。その道は、徳、高潔、忠実、清いこと、そして、神のあらゆる戒めを守ることである。」(『預言者ジョセフ・スミスの教え』pp.255-256)

しかし、この偉大な幸福の計画(アルマ42:8参照)の中には、困難や悲しみも含まれています。ドミニカ共和国サンチャゴ伝道部ペルト・プラタ地方部のエドワード・N・レイノーズは、こう言っています。「忠実に戒めを守ったからと言って、わたしたちの生活から試練や苦痛が一掃されるというわけではありません。リーハイも、試練というものは天父の偉大な幸福の計画の中では必要なものである、と教えています。主の助けを頂きながら、そうした試練を克服することによって、わたしたちの信仰も証も強められるのです。」

イエス・キリストの福音があるからといって、いつも悲しみから逃れられるわけではありません。むしろ、福音の助けによって、悲しみから立ち直ることができるのです。後になって考えてみると、福音の助けがあったからこそ、あの試練に耐えられたとか、そうした苦しい時期に主に近くあったからこそ、力を得られた、と思い起こすことがきっとあるでしょう。福音を通じて絶えず教えられているように、信仰を持つというのは、いかなる状況であれ、イエス・キリストに全幅の信頼を置くことなのです(箴言3:5参照)。

時には心の状態によって、自分が幸福かどうか左右されると言ったら、皆さんは驚くでしょうか。すでに与えられている祝福に感謝する心があると、人生で出遭う様々な嵐を乗り越えられるようになります(アルマ26:6-8, 16参照)。アルマが息子のヒラマンに

与えた助言と約束について考えてみましょう。

「あなたのすべての行いについて主と相談しなさい。そうすれば、主はあなたのためになる指示を与えてくださる。まことに、夜寝るときは、眠っている間も主が見守ってくださるよう、主に身を託して寝なさい。そして、朝起きるときに、神への感謝で心を満たしなさい。これらのことを行うならば、終わりの日に高く上げられるであろう。」(アルマ37:37)

もし何かのせいであなたが幸福を感じられないでいて、あなたにその何かを変える力があるとしたら、変える決心をしてください。ただ、欺かれないようにしてください。もし友人の間でもう少し人気を得ようとして福音の標準を捨てるようなことがあれば、幸福にはなれません。ほんとうの意味で、また永遠にわたって幸福にしてくれるものは何なのかを理解し、それに向かって努力をする必要があります。理解や平安、喜びは、イエス・キリストの福音の証とともにもたらされます。それは、永遠にわたる導き手となるばかりでなく、日々の生活においても指針となるものなのです。

## 読者からの提案

わたしはバプテスマを受けてはいましたが、幸福ではありませんでした。バプテスマを受けて6年ほどたったときですが、自分が幸福でないのは、自分自身の証を持っていないからだということに気づきました。自分で主に対する信仰をもっと働かせ始めたとき、主に対する愛も深まってきました。祝福師の祝福も、生活に変化をもたらすのに大いに役立ちましたし、それによって、自分がそれまで見過ごしていた

幸福にも気がつくようになりました。

主を信頼し、自分自身の証を得てください。戒めを守ってください。そうすれば、自分の生活が良い方向に変わっていくのが分かるはずです。



エクアドル・キト・コロステーク、コミテ・デル・ブエプロワード  
シルビア・ビヌーエサ

まるで詩でも勉強するように、つまり、暗唱だけを目的に、福音の原則を学んだとしても、それはただ単にキリストの存在を信じている表れにすぎません。しかし、福音の真の目的と重要性を理解できれば、人生に大きな変化がもたらされます。そうすると、福音は日々の生活の一部となり、やがて、犠牲と慈愛と謙遜な心を通して、真の幸福を味わえるようになります。

イタリア・ローマ伝道部、カステラマレ・ディ・スタビア支部  
スタニスラオ・タリファ

成長するにつれ、幸福というものは絶え間なく人々のもとに訪れるわけではないと分かってきました。幸福かどうかは、人の思いと努力にかかっています。わたしたちは、自分がどれほど熱心に聖文を研究しているか、またどれほど熱心に必要な助けを求めて祈っているかということを、自問してみる必要があります。



韓国・釜山ステーク、  
釜山温泉ワード  
宋善愛

生活の中にイエス・キリストの教えを取り入れている人が、どうして幸福ではないなどということがあるのでしょうか。自分の頂いているあらゆる祝福のことを考えてみてください。あなたには友達があります。愛してくれる指導者がいます。永遠の家族という約束があります。救い主の愛があります。救い主は、悔い改めさえすれば罪の赦しを受けられるよう、その命をささげてくださいました。

あなたは、預言者、聖見者、啓示者によって導かれている主の教会の会員です。そのうえ聖文にも、教会の出版物にもいつでも接することができ、それによって、自分の生活に聖霊の影響力を導き入れることもできるのです。ブラジル・リオデジャネイロ・マドレイラステーク、フレグエシア・ジャカレ・バグアワード  
ジュリアナ・ラビエリ

自分自身の経験から言えば、子供時代の問題だとか成長の過程のようなものが人の幸福感に影響を及ぼす可能性があることは分かります。しかし同時に、幸福かどうかは周囲の状況に左右されない、ということも分かってきました。幸福な気持ちは、イエス・キリストを信じる信仰を深めていく過程で、心の中からわき上がってきます。それを理解し、受け入れるためには時間が必要です。

その間に重要なことは、人に対しても、自分に対しても優しくあることです。



フィンランド・タンペレステーク、ユバスクラワード  
マリタ・コルペラ

わたしは宣教師として、だれかの指示を待つのではなく、自分自身の意志で多くのことを行うようになってきました。わたしたちは救い主のような者となる必要があります。救い主は、御自分の意志でこの地上に降臨され、わたしたちの罪の代価を支払っていただきました。救い主はひどく苦しめまれましたが、御父の御心を行っておられたので、幸福でした。

エルサルバドル・ソンソナテステーク、ラス・デリーシアスワード  
ホルヘ・グエバラ長老

教会員になってしばらくしてから、わたしは不満を感じ始めました。福音の中で生活していても幸福を感じなくなったのです。しかし、聖文の研究と祈りのおかげで、そのような気持ちを克服できました。今では、福音について人に紹介するのが大好きになりました。なぜなら、そうするときに幸福を感じるからです。



シンガポール、シンガポールステーク、シンガポール第3支部  
メリンダ・R・カバエ  
□

幸福になるためには、聖文を熱心に調べる必要があります（アルマ17：2参照）。忘れないでください。わたしたちの生活を豊かにしてくれるものは、わたしたちが受けるものではなく、わたしたちが与えるものなのです。

南アフリカ・ダーバン伝道部  
〔マダガスカル〕アンタナナリボ第2支部  
チャールズ・ランボラーソン

福音の中で成長するにつれ、「教訓に教訓、規則に規則」（教義と聖約98：12）を加えるようになります。最終的には、幸福に至る唯一の道とは、天父とその御子イエス・キリストを知ることであ

る、ということが理解できるようになります。戒めと福音の儀式を守ってれば、御二方の持っていらっしゃるすべてのものを受け継ぐ者となれるのです。グアテマラ、グアテマラ・シティー・フロリダステーク、サンタ・マルタワード  
アナ・マリア・ゴルディオ・デ・アパディオ

福音の原則に従った生活をするのは、肉体的な健康を維持するためにバランスの取れた食生活を送るのと似ています。天父がわたしたちに望んでおられる事柄をすべて行うなら、霊的な意味でも健康を維持し、幸福に暮らせるでしょう。

フィリピン・サンパブロ伝道部、バヤン支部  
ジュリエット・A・モイノ

わたしは、10歳のときにバプテスマを受けました。それから何年間も、福音が約束しているようなほんとうの意味での幸福感を味わえないでいました。しかし時がたつにつれ、次第に分かってきたことがあります。幸福になるために必要な信仰をはぐむ努力をしていなかった、ということです。わたしは当時、主にかかわる事柄がどれほど大切か認識できるほど、霊的な意味で成熟してはいなかったのです。

今では、自分の人生で最も幸福な瞬間というのは、イエス・キリストの真の福音に焦点を合わせて生活しているときだということを、はっきりと知っています。



アルゼンチン・サルタステーク、インデベンシア支部  
パオラ・マテルデ・フロレス

幸福というのは、それを得ようと絶えず努力して初めてもたらされるものです。何もしないでいては決して幸福は味わえません。それを決めるのは、わたしたちがどれほど熱心に戒めを守

っているか、そして、永遠の命という目標に向かって前進を続けているかなのです。

ブラジル・ペロホリソンテ西ステーク、パンブーリア支部  
ケリー・カルバリョ・ロベス

初めて末日聖徒イエス・キリスト教会のことを知ったとき、教えられたことをすべて実践してみました。それ以来わたしが主の望まれることを絶えず行うように努めてきたのは、それを自分で望んだからでもあります。

幸福になるためには、戒めや福音の原則に従った生活をする必要があります。そうすることが教会員の義務だからというだけでなく、そうすることが自分の望みだからでもあるのです。

オーストリア・ウィーン伝道部、リンツ支部  
アネリーセ・ゴッセンライター

下記の質問に答えて、「質疑応答」のページをさらに有意義なものとしてください。締め切りは1997年7月1日、あて先は次のとおりです。

#### QUESTIONS AND ANSWERS

International Magazines  
50 East North Temple Street  
Salt Lake City, Utah 84150 U.S.A.

氏名、住所、所属ステーク／地方部、ワード／支部名を明記のうえ、日本語で意見をお寄せください。手書き、ワープロ、いずれでもけっこうです。できれば写真を同封してください。ただし写真の返却はできませんので、あらかじめご了承ください。

質問——聖文には、聖文を熱心に調べなければならないと書かれていますが、それはどういう意味なのでしょう。わたしは毎晩聖文を読んでいます。何をどのように調べたらよいのでしょうか。□

## キリストがおられることを知る

「イエス・キリストが神の子であ〔る〕ことを知ることが、聖霊によって許される。」(教義と聖約46:13)

**福**音の第一の原則は、主イエス・キリストを信じる信仰です。この信仰は、単に信じるのではなく、イエスが文字どおり神の御子であり、わたしたちの救い主であるという聖霊の証から生まれた確信です。そのような証を持つことは、救い主がわたしたちに熱心に求めようように勧めておられる最も大切な御霊の賜物の一つです。

### イエス・キリストに対する証を得るにはどうしたらよいでしょうか

救い主に対する証を求めることには、願い求め、行動するという二つの要素が含まれます。ゴードン・B・ヒンクレー大管長はこのように述べています。「主御自身が次のように述べてその原則を教えていらっしゃいます。『神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも、わたしの語っているこの教が神からのものか、それとも、わたし自身から出たものか、わかるであろう。』(ヨハネ7:17)

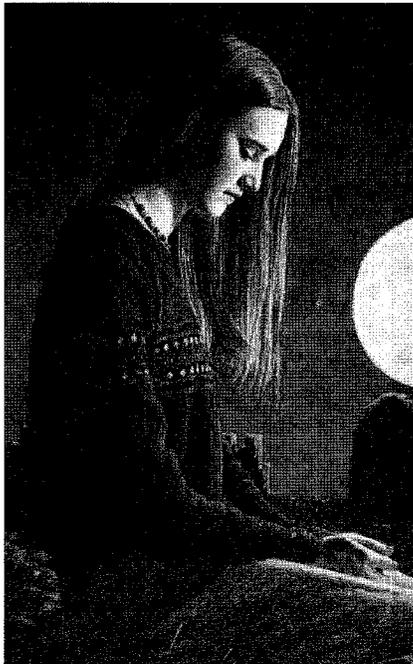
それには神の言葉を研究する必要があります。また祈りと、すべての真理の源に絶えず尋ね求めることも必要です。福音の実践も必要です。『教えを……実践する』と……言ってもよいでしょう。わたしは、このすべてのことから、聖霊の力によって確信、証、確かな知識がもたらされるということ、ためらうことなくお約束します。」「(信仰—宗教の本質)『聖徒の道』1995年10月号, p.6)

証を得るには、一つのことをすればよいのではなく、幾つかのことを続けて行う必要があります。キリストの神性について証を得た人は、続けて学び、教えに従い、奉仕することにより、その確信が強められるのです。

「主はわたしの光、わたしの救だ」  
(詩篇27:1)

1945年、大学3年生になるシンシア・マロリーは、学費を稼ぐために、ユタ州南部のペンションで夏の間、アルバイトをしました。同じ場所で働いていた学生の何人かは、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員でした。毎週1度宗教について話し合う集まりに来てみないかと誘われ、シンシアは教会員ではありませんでしたが、行くことにしました。家から離れていた数年間、ほかの関心事に流されて、生活の中から精神的なものが失われていると感じたからです。その小さなグループのり

ILLUSTRATED BY SHERI LYNN BOYER DOTY



ダーは、観光バスの運転手として夏の間働いていたセミナーの教師でした。

話し合いに耳を傾け、シンシアは感動しました。でも、聖霊について話し合うときまでは、改宗しようとは思ってもみませんでした。シンシアはペンションの近くの野原まで歩いて行きました。そこで、「真理を知るためにイエス・キリストの名によって天父へ祈るならば、聖霊の力によって答えを受ける」という約束を試してみようと決心しました。辺りは暗くなっていますが、ペンションの明かりが見えるので安心して木陰にひざまずき祈りました。まだ質問をし終えないうちに、心の中に明かりがともったような感じがしました。そして答えが、はっきりと分かりました。イエス・キリストについて聞いたことは真実だったのです。

その瞬間、シンシアの生活は変わりました。彼女は何をすべきか分かりました。バプテスマを受けるべきでした。見えない手に導かれ、初めて自分自身で決断を下すことができたのは、大きな喜びでした。救い主の承認と愛を感じ、主の戒めを守ろうと決心しました。

今も、シンシアは主と主の福音に対して献身的な生活を送っています。彼女の証は、聖霊によって強められ、絶えず大きな喜びを生み出しているのです。

● イエス・キリストに対する証を増し、強めるにはどうしたらよいでしょうか。

● 主がどのような御方であるかを知ることが、あなたの日常生活にどのような影響を及ぼしますか。□

# どうか ルースを お助けください

ルース・ハリス・スワナー  
ILLUSTRATED BY DAVID LINN

わたしは霊的な感受性がまひしてしまったような状態でした。主がほんとうにわたしを愛し、心にかけてくださっているのかどうか確信が持てなくなっていました。天父が遠い存在に感じられました。

いつまでたっても手のかかる子供たちを抱えながら、教会の責任も果たしていかなければなりません。そのうえ、夫は仕事が忙しく留守がちで、いちばん必要だと感じるときにそばにいないこともよくありました。このような重圧に息が詰まりそうな気がしました。自分に求められるこれらの責任の重さに至らなさを感じ、押しつぶされそうでした。

それでも毎月、訪問教師が訪ねて来る度に、心の内の悩みを押し隠し笑顔で彼女たちを迎えました。訪問教師たちと話すのは、互いの家庭の中の良いニュースばかりでした。姉妹たちが携えて来てくれる家庭訪問メッセージの内容は少しも頭に残りませんでした。何も感じ取ることができず、姉妹たちのメッセージが心の中を素通りしていきました。

訪問教師の姉妹たちに玄関で別れのあいさつをしながら、心の中でこうつぶやいていました。「ほんとうに時間の無駄だったわ。あの人たちにわたしの気持ちなんか分かりっこないわ。それに、もしわたしの苦勞を分かってくれたとしても、どうしてももらうこともできないだから。」

体はくたくたに疲れ切って  
横になって休みた



い気分でしたが、がむしゃらに家事をこなし続けました。毎日のお決まりの家事をじゃまが入らないうちにさっさと済ませてしまおうと働き続けて数時間たったとき、突然、玄関のベルが鳴りました。

そこには年若い訪問教師のジュリーが立っていました。ジュリーは家に入るとわたしの両手を取り、一緒にお祈りをするための場所があるかどうかと尋ねました。

ジュリーの質問の意図がよく理解できないまま、なぜわたしの家に戻って来たのか聞いてみました。

ジュリーは愛を込めて言いました。「さっき来たときから、あなたのことが心を離れなかったの。初めに同僚とあなたを訪問したとき、あなたのひとみに苦悩の色が見えたの。その後、家に帰ってからも、あなたのことが気

になって何も手につかなかったわ。だから家事の手を止めてひざまずいて祈ったの。『主よ、わたしをお助けください。そしてどうかルースをお助けください』って。主が与えてくださった答えは、ちょうどそのときわたしがやっていたこと、つまり、ひざまずいて愛する天父に祈ることだったの。」

わたしはじっと立ってジュリーの話聞いていました。ジュリーは目に涙をいっぱいためて、はっきりとこう言

いました。「ルース、<sup>みなま</sup>御霊に促されてあなたの家に戻って来たの。今のあなたにとって祈るのが大変だってこと、わたしには分かるわ。天父の愛を感じられないでいることも。」ジュリーの言葉がわたしの心を捕らえました。ジュリーの言ったことは否定しようのない事実だったのです。

「どこか一緒にお祈りできる場所ないかしら。」再びジュリーがそう言いました。

「ええ、あると思うけど……」とわたしは口ごもりました。

二人で別の部屋に入ったとき、ジュリーは言いました。「まずわたしに祈らせて。それからあなたにお祈りしてもらいたいの。」

「だめ。わたしにはできないわ。」わたしはジュリーの言葉を遮りました。天父がわたしの祈りを聞いてくださるとは思えないし、第一神様に何かお願いするような気分ではないことをジュリーに告げました。でもジュリーがひざをかがめたので、わたしもジュリーの隣に並んでひざまずきました。

ジュリーはこう言いました。「ただ一つ、簡単な質問をしてほしいの。神様、わたしは愛されているのでしょうか。」そう言ってからジュリーは祈り始めました。ジュリーがわたしのためにささげてくれる特別な祈りに心が安らぎました。御霊がわたしの心に満ち、怒りと不満が消えていきました。

天父がすぐそばにいらっしゃって、わたしを待ってくださっていることをはっきりと感じました。

祈り終わると、「さあ、今度はあなたの番よ、ルース」とジュリーに促がされました。

静けさが部屋を包みました。祈りの言葉が出て来るまでの数分間が数時間に感じられました。「天のお父様。」ようやくそう呼びかけました。「わたしを愛していっぱいますか。」そう尋ねた瞬間、涙があふれました。少したつと祈りの答えが与えられました。苦悩にあえぐ心の中に静かに与えられたのです。「聞くまでもなく、あなたは

その答えを初めから知っていたはずですよ。」答えはとも

ははっきりと心に残りました。

「初めから知っていた」という言葉が、温かい愛とともにわたしの内に注がれ、心の透き間を埋めていきました。そして今までに学んだたくさんの真理について再び思いを巡らし始めました。すると、天のお父様が様々な方法で愛を示してくださっていることを改めて思い起こしました。天父はいつもわたしを愛してくださっていたのです。

天父の愛を再び感じたとき、御子イエス・キリストと主の愛を伝えてくれる人々への感謝の念が心に広がりました。特にジュリーへの感謝の思いはひとしおでした。そしてその日以来、ジュリーのように、人々が最も必要としているときに救い主の愛を伝える人になろうと努めています。□



# 半ペニーと 真珠

ジェリー・ポローマン



ジョン・ポローマンの遺産である半ペニーは、多くの教会員が福音を受け入れるときに払う犠牲を思い起こさせてくれる。

1840年の春、カナダのオンタリオ州ラナーク郡で末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師が24歳のジョン・ポローマンにイエス・キリストの福音を伝えました。ジョンは話を聞くなり福音が真実であることを悟りましたが、その証とともにもたらされたのは、福音のために払わなければならない厳しい犠牲の数々でした。

ジョンは教会に加入することについて父親の意見を求めました。しかし、父ウィリアム・ポローマンはジョンがバプテスマを受けることを頑として拒み、丸2日話し合ったものの出た結論は、バプテスマを受ければ遺産である家族の農場は渡さないというものでした。長男であったジョンは半生を家族とともにその農場で働いてきており、家督を受け継ぐ正統の権利を持っていました。さらに悪いことに、教会を選べば父子の縁を切られることも、ジョンは知っていました。家族を愛する24歳のジョンにとっては何ともやるせない状況でした。

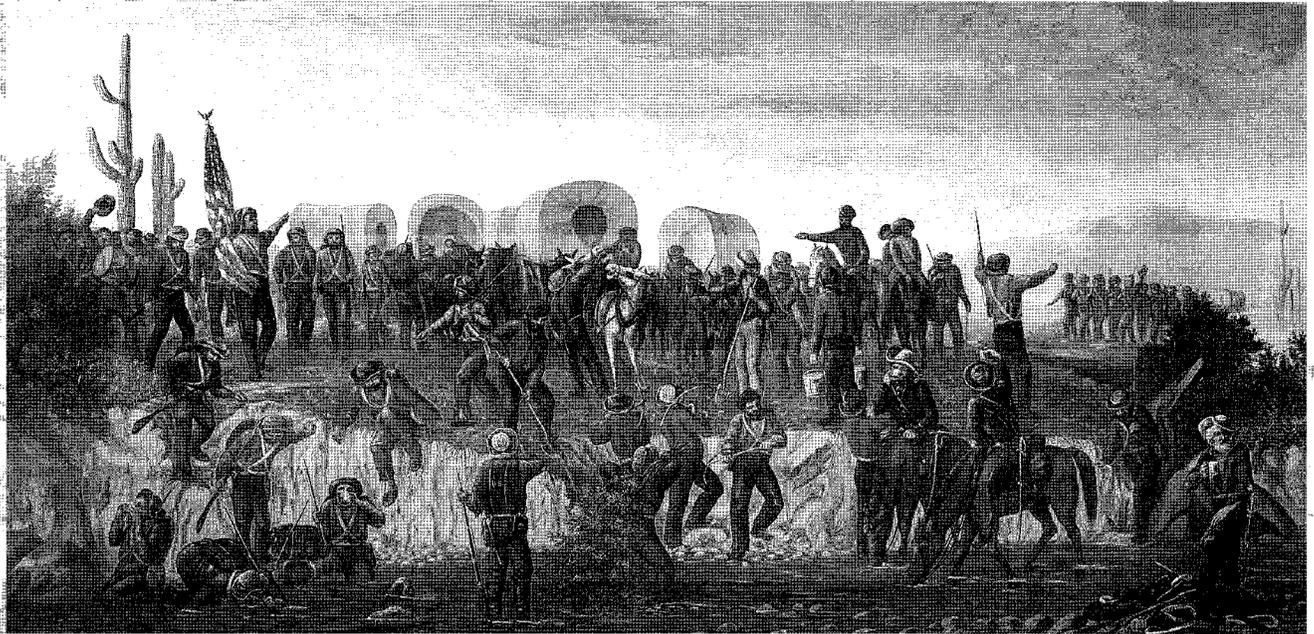
しかし、そのようなつらい選択にもかかわらず、彼の

新しい宗教への期待は薄れることはありませんでした。彼は福音の光が太陽のように世界に降り注ぎ、すべての人に救いがもたらされるようになることを感じていたのです。こうして、父親の反対や貴重な遺産を失ったことから来る悲しみにもかかわらず、ジョンは1840年6月7日にバプテスマを受けました。こうして、高価な真珠を手に入れるために持ち物をすべて売り払った、マタイによる福音書第13章45節から46節の商人のように、ジョンはすべてのものを手放して末日聖徒イエス・キリスト教会の会員になりました。姉の家に一時身を寄せた彼は、1843年にイリノイ州ノーブーに移り、聖徒たちの本体に加わりました。

## 伝道活動と入植

ノーブーでは大工として神殿の建設のために働いたジョンでしたが、後に宣教師としてジェームズ・パークとともにカナダに召されました。最初に伝道したのがオンタリオ州セント郡ブルックという小さな開拓地でした。人々は熱烈に福音を受け入れ、250人がバプテスマを受けました。

ジョンたち宣教師は新たに教会員になった人々にノーブーへの移住を勧めました。こうして1845年の春、聖徒たちは移住のための幌付き荷車の準備を整えました。彼



LOWER LEFT: COIN COURTESY OF MUSEUM OF CHURCH HISTORY AND ART; LEFT: MAP © NATIONAL GEOGRAPHIC SOCIETY; ABOVE: THE MORMON BATTALION, BY GEORGE M. OTTINGER

らの開拓地からノーブーへ出る道はそりがやっと通れるような狭い道だったので、聖徒たちは木を伐採して道を切り開きました。聖徒たちのノーブーへの移住にかかる熱意は並々ならぬもので、彼らが切り開いたその道は今でも「ノーブーへの道」と呼ばれています。

カナダからのこの聖徒たちがノーブーに到着したのは、一刻も速い神殿の完成に向けて精力的な作業が行われていたときでした。やがて、暴徒のために平安な状態でノーブーにとどまることが不可能だと判断した聖徒たちの多くは、完成半ばの神殿でエンダウメントを受け、1846年2月に凍りついたミシシッピ川を渡り、安全なアイオワに移ったのでした。

### モルモン大隊に加わる

1846年、アイオワ州カウンスルブラッフスで、合衆国政府はブリガム・ヤングに対して、有能な男性500人を募り、カリフォルニアまで行軍してメキシコ戦争への援軍を行うように要請してきました。ジョン・ボローマンは召しを受けてB隊の兵卒として入隊しました。この大隊のための送別礼拝集会でブリガム・ヤングは、モルモン大隊は戦闘で決して敵に遭遇することはないと預言しましたが、その預言は、敵と対峙する可能性が多々あったにもかかわらず成就しました。それでも、隊員は多く

1846年、ジョン・ボローマンはモルモン大隊に加わり、アイオワからカリフォルニアまでの3,300キロを行軍した。

の困難に直面しています。その最たるものは、乾燥した山間地帯のため、水と食糧が不足したことでした。しかし、そうした困難な状況にもかかわらず、隊員は指導者に忠実に従い、勇気を示しました。彼らは預言どおり人間としての敵に遭遇することはなかったものの、たけり狂う野牛の群れに悩まされました。それを「野牛との戦い」と呼んでいるほどです。

食糧が底をつき、飢えと渇きにさいなまれながらも、隊員は不毛の南西部の山々の曲がりくねった溪谷を、道を切り開きながら（時には幌付き荷車との間隔がわずか数センチしかない所もあった）進んで行きました。ようやく傾斜が緩やかになり、行く手に初めて太平洋が見えた日は、まさに感動の日でした。

その後、一つの不幸がジョンを襲います。疲労のため、歩哨中に居眠りをしてしまったのです。眠ったのはほんの一瞬でしたが、それを見とがめた軍曹が上申ししまいました。これは、戦時下では死刑に値する罪です。モルモンの兵士たちも軍司令官や軍法の下に服従を強いられる立場にあったので、ジョンは直ちに投獄されました。



TILLING THE SOIL, BY JOSEPH A. F. EVERETT, MURAL IN THE IDAHO FALLS TEMPLE; COPYRIGHT BY THE CORPORATION OF THE PRESIDENT, THE CHURCH OF JESUS CHRIST OF LATTER-DAY SAINTS; NO REPRODUCTION AUTHORIZED OR PERMITTED.

それからの数週間、彼は友人から借りた『モルモン書』を読み、大きな慰めを受けました。

ジョンは一時釈放されたものの、それが誤りであったと判断され、いやいやながら再び収監されました。そして、そのときの孤独で不快な様子を次のように日記に書いています。「冷たく湿ったれんがの床と毛布だけで、寝具はほかに何もない。」(Journal of John Borrowman, 1846-1860『ジョン・ボローマンの日記, 1846-1860』教会歴史部, マイクロフィルム, 22) ジョンは裁判で3日間の歩哨任務、1日3時間の収監、給与から3ドルを天引きするという判決を受けました。死刑は免れたものの、ジョンはその判決を重荷に思い、軽くして下さるようにと主に祈りました。とは言っても、彼の釈放は異例の処置でした。判決の内容を知った常備軍の大佐が判決の軽すぎることに不快を示したほどで、自分ではそれを覆す権限がないため、軽い罰でも無罪よりはいいと言って不問にしたのです。ジョンはこの事実を知り、熱心な祈りへの答えとして受け止めました。

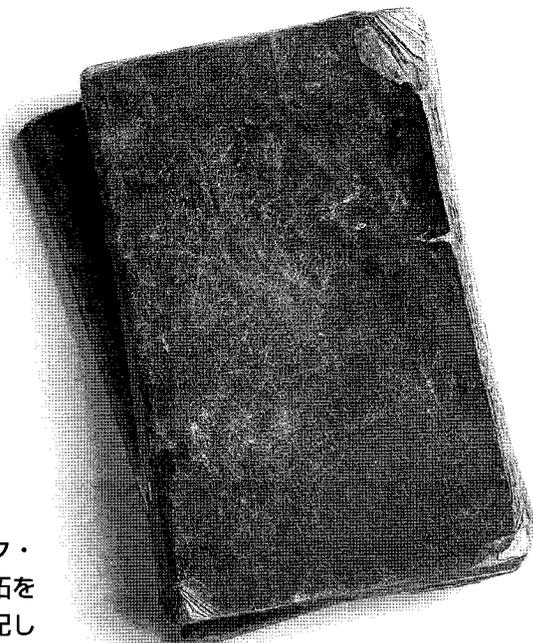
### 金鉱の富を後にして

モルモン大隊から名誉の除隊を受けたジョンは、馬を売ってカリフォルニア州サンフランシスコへの船の切符を買いました。サンフランシスコでは小さな集落を作っ

て生活していた聖徒たちに会い、彼らから1日2ドルの仕事の紹介を受けています。それから数か月後、ジョンはソルトレーク盆地にいる聖徒たちの本体と会うために東に向かって出発しました。途中サクラメントでジョンは、モルモン大隊の仲間が金鉱の発見されたサッターズ・ミルという所で働いていることを聞きます。こうしてジョンは金の採掘を始め、彼の日記によれば、1日25ドルから60ドルの金を毎日得ています。サンフランシスコで紹介された仕事と比べれば大変な金額です。

しかし、大隊の隊員にブリガム・ヤングから直接ソルトレーク・シティーに帰還するようにとの命が下ると、ジョンと仲間の隊員たちは金鉱掘りとしての富をもたらす仕事をすぐにやめ、ソルトレーク盆地に向かってシエラネバダ山脈を越える困難な旅路に就きました。ソルトレーク・シティーに到着後、町の外に土地を与えられたジョンは熱心に働き、その土地を灌漑設備のある美しい農場に変えました。

ジョンの結婚に関する1849年1月22日の日記の記述は実に淡白です。「今月2日からずっとよく考える時間がないので日記には何も書いていない。……その日以来家の片付けに忙しかった。9日の夜、わたしは結婚してタービットさん所有のアドビーれんがの家に移り、今、妻とともにそこに住んでいる。」(『ジョン・ボローマンの日記』より)



PHOTOGRAPH OF JOURNALS BY WELDEN ANDERSEN

1853年、ジョンとアグネス夫人、それに5人の子供たちはソルトレーク・シティーにあった美り多い自分たちの農場を離れ、ニーファイの町の開拓を行うように召された。ジョンはそのことやほかの多くの出来事を日記に記している。

### 移住に伴う犠牲

やがて、ジョンとアグネス・パーク夫人は5人の子供に恵まれますが、1853年、ソルトレーク・シティーの豊かな農場を離れなければいけなくなりました。ユタ州ニーファイ（ソルトレーク・シティーの南方130キロ）への移住の召しを受けたのです。地元の新報の記事によれば、ジョンはその小さな町で人々から尊敬を受ける市民として数えられるようになりました。彼は初め検察官として、次いで判事として働きました。そして1869年、カナダへの2度目の伝道に召され、2年間家族を後に残して奉仕をしています。記録によれば、ジョン・ボローマンが生涯において改宗にかかわった人は、1,100人を超えます。

### ジョンの遺産

父ウィリアム・ボローマンは、息子ジョンの教会への加入を決して許すことはありませんでした。家族にはジョンを兄弟やおじと呼ぶことを禁じたほどです。しかし、ジョンの義理の母ヘレンはジョンとの音信を絶やしませんでした。そして1857年の手紙で彼女は、父ウィリアムが他界したこと、またウィリアムがジョンへの遺産として半ペニーを渡すように言っていたことを知らせてきま

した（半ペニーは約5円）。

ジョン・ボローマンの生涯を振り返ってみると、彼はカナダの富裕な農場の権利を捨て、カリフォルニアの金鉱の富を後に残し、自らの手で開拓したソルトレーク盆地の農場を手放しました。それもすべて、何の憂いもなくそうしているように思われます。ほかの大勢の聖徒たちと同じように、ジョン・ボローマンは時と場所を問わず、また躊躇することなく主の召しに従ったのです。

高祖父ジョン・ボローマンの生涯を研究しながら、遺産を受け取ったときに彼が何を思ったかをずっと考えてきました。主の民と一つになりたいという彼の心は、次の聖句に最もよく表されているのではないのでしょうか。

「また天国は、良い真珠を捜している商人のようなものである。

高価な真珠1個を見いだと、行って持ち物をみな売りはらい、そしてこれを買うのである。」（マタイ13：45-46）

このようにして、ジョン・ボローマンは二つの遺産を手に入れました。それは、高価な真珠と半ペニーです。

□

この記事は1816年5月13日に生まれ、1898年3月28日に亡くなったジョン・ボローマンの日記を基にして書かれました。

# テレビとの正しいつきあい方

リサ・M・グローバー

テレビにはすばらしい可能性が 있습니다。テレビを通して世の中について学んだり、楽しいひとときを過ごしたり、それに福音のメッセージを広めたりもできます。けれども、テレビがすばらしい働きを見せるのは、適切に活用した場合だけです。この次テレビの前に座るとき、次のことを考えてみてください。

**テ**レビを見る前に、自分にこう問いかけてみましょう。

- 勉強は終わったか。
- 家事や庭仕事の手伝いを終えたか。
- 運動はしたか。
- 聖文を読んだか。
- 今日1日の出来事を家族に尋ねたか。

テレビを見る代わり次のようなことができます。

- いつもしてみたいと思っていたことのリストを作る。そしてその一つを実行する!
- 日記をつける。
- 『聖徒の道』を読む。
- 家族と時間を過ごす。(そうすれば、家族もテレビを見たいと思わなくなる。)
- 何か楽器を習うか、練習時間を増やす。

テレビを見るときはよく選んで見ましょう。方法はこうです。

- 1日、あるいは1週間にテレビを見る時間を制限する。
- 見始める前に何を見るかを決める。有意義な番組を選ぶように努める。
- 報奨制度を作る。宿題を終えたり、有意義な読書をした後で、褒美として自分に30分間テレビを見ることを許す。

- ニュースなどの情報番組を見て、時事情報に詳しくなるようにテレビを活用する。
- 低俗なものや不適切なものが登場した場合は、テレビのスイッチを切る。

「**テ**レビなしでは生きていけない」なんて思っていないですか。カリフォルニア州、サンディエゴにあるペナスキートス第1ワードの青少年は1か月のテレビ「断食」を実行しました。以下は3人の若い女性の経験談です。

「好きな番組が見られなかったのは残念でしたが、普段テレビから受けていた悪い影響から逃れられたのでよかったです。」——アン・ハンセン、16歳

「テレビを見なかった時期は、ちょうどどの大学に進学するか決めようとしていた時期だったので、安らかな気持ちで祈り、必要としていた答えを受けることができました。」——キャリー・デビッド、18歳

「この断食はわたしには難しかったんですけど、テレビを見なかったおかげでほかの人に対してよりよく接することができたように思います。」——ティフ



ILLUSTRATED BY DILLEEN MARSH

アニー・クラーク, 13歳

**最**後に、テレビにはどんな弊害があるのでしょうか。テレビはどのような影響を及ぼすのでしょうか。次に紹介するのは、セミナーの生徒たちの意見です。

「テレビを見過ぎると、勉強や宿題の時間が少なくなります。」——コピー・ページ, 17歳

「もしわたしたちに、信じている原則があれば、それによってどんな番組を見るかが決まります。もしなければ、見る番組がわたしたちの信じることを決めてしまうかもしれません。」——キャンディ・ニッケル, 17歳

「テレビを見ると、家族と話したり有意義な活動をしたりする時間が少なくなります。」——キャラ・アデア, 17歳

「テレビを見ていると、悪いことをしている人たちがそれを楽しんでいるように見えることが時々あります。そのような風潮は、わたしたちの価値観に影響を与える可能性があります。」——メロディー・モーア, 17歳□



# おお、 開拓者よ!

近年発表された、  
開拓者をたたえる  
芸術作品から



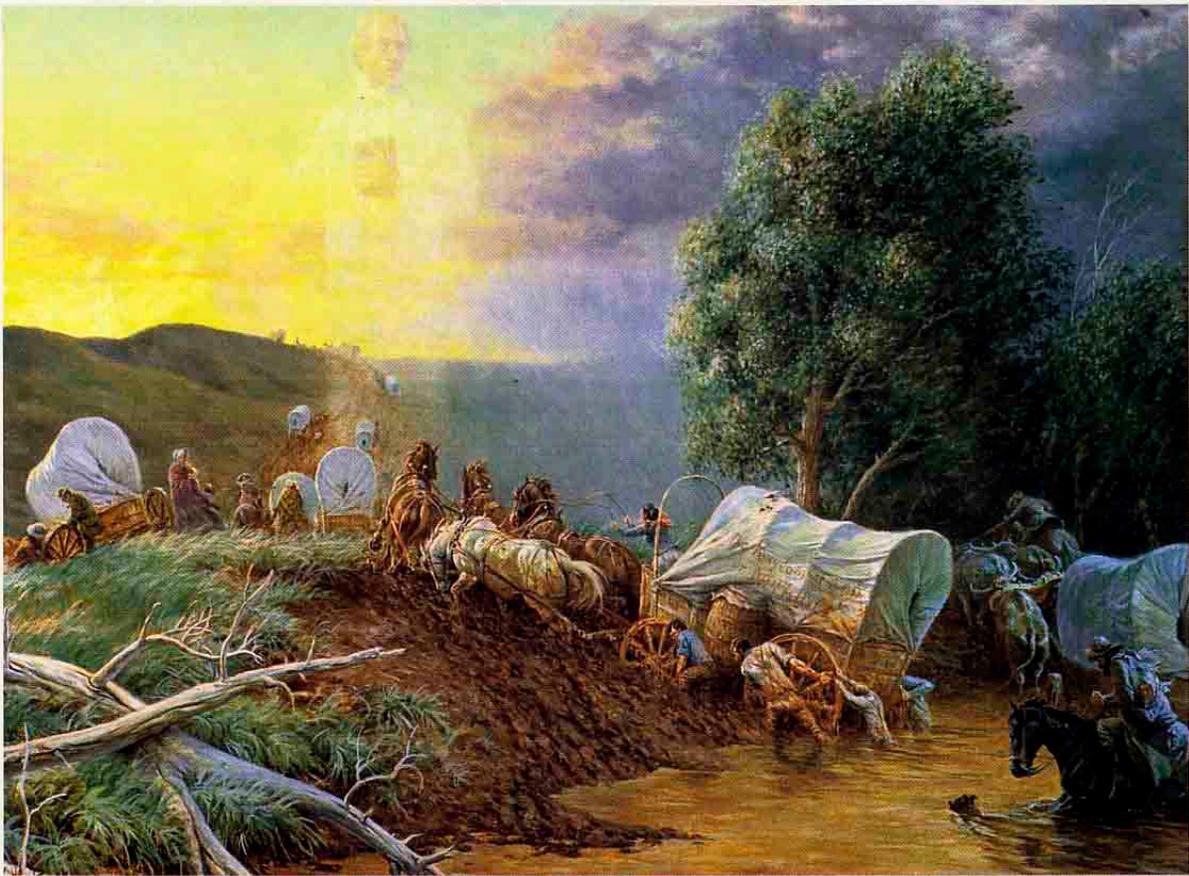
上—「1847年7月24日、移住の谷」1986年、バロイ・イートン画。現在主要高速道路が通っているこの谷は、150年前、最初の開拓者たちがソルトレーク盆地に入るための入り口であった。

左—「押せ、肩の力もて」1986年、ゲーリー・プライス作。銅製彫像。開拓者の旅は家族の力や信仰、献身や協力の大きい試みであった。

**18** 45年、最初の末日聖徒の開拓者たちは大平原を  
通ってソルトレーク盆地に至る2,000キロの旅を始めました。彼らは、教会の指導者たちがそれよりずっと以前の1834年に抱いていたビジョンに従っていました。そのビジョンとは、ロッキー山脈が聖徒たちの避け所となるというものでした。

苦しい旅を終えた聖徒たちはソルトレーク盆地やそのほか西部の700に及ぶ地域に集落を形成しましたが、彼らを待っていたのはさらなる心痛と苦難でした。

開拓者たちの信仰や勇気、そして粘り強さをテーマに、これまで多くの末日聖徒の芸術家たちが作品を創作してきました。ここで紹介するのは、その中でもごく近年発表された作品の中の数点です。これらは、ソルトレーク・シティーにある教会歴史美術館において、「西部の面影」というテーマで行われた作品展に出展された中の一部で、特に表記のないものはすべて、同美術館に常時展示されている作品です。写真撮影／ロン・リード。



左上——「わたしたちはこのような偉大な大義において前進しようではありませんか」1990年、クラーク・ケリー・プライス画。初期の開拓者たちは、殉教した預言者ジョセフ・スミスのビジョンに従った。ジョセフ・スミスは、聖徒たちがロッキー山中に移住することを予見した。



左下——「ひまわりとバッファローのふん」1987年、ゲーリー・カップ画。大平原ではまきが不足していたため、女性や子供たちは料理の火を起す燃料用に、固くなったバッファローのふんを拾い集めた。

右上——「水を運ぶ少年3」1988年、ビル・L・ヒル画。マリス・ラーセン氏より借用。開拓者であった祖先たちと同じように、現代の多くの聖徒たちもまた、生計を立てるために土地を耕し、懸命に働いている。作者が農場で働く父親に水を運んだ思い出を描いた作品。



右下——「ヤコブ・ハン布林」1975年、エルディーン・トゥールブラッド作。銅製彫像。「レーマン人への使徒」としばしば称されるヤコブ・ハン布林(1819-1886)は、アメリカインディアンのもとに送られた平和の使者であり、宣教師であった。この作品では、養子にしたアメリカ先住民の息子とともに馬に乗るヤコブの姿が描写されている。



# いつもの木曜日

ガブリエル・ラローズ

いつもの木曜日のことでした。夫のジャン-ピエールは仕事に出かけ、上の子供たちは学校へ行きました。下の子供たちはわたしと一緒にケベック州バルドールの自宅にいました。わたしはいつものように洗濯や部屋の掃除、食事の支度などの仕事を始めました。

午後2時半ごろに少し休憩しようと思い、腰を下ろして数分休み、それから聖典を取り上げました。その日まで『モルモン書』を読んでいたのですが、なぜかそのとき、『高価な真珠』を開き、モーセ書に書かれている天地創造の話を読み始めました。

読んでみると、何とも説明し難いことが起きました。読むのがやめられないのに加え、これまで以上に深く理解できたような気がしました。それは単なる言葉だけでなく、霊的な力による理解でした。本から目を離すことができず、時間のたつのもすっかり忘れてしまいました。家族が帰って来るころになっても、まだ家事は終わらず、夕食の準備もできていませんでした。

数日後、教会でノエル・ダーマー、ウーゲット・ダーマー夫妻に会うまでは、どうしてこのような素晴らしい経験をしたのか分かりませんでした。二人は3週間の休暇から帰って来たばかりでした。わたしたちの家から1,600キロも離れたワシントン神殿へ行ってきたのです。ダーマー兄弟姉妹が出かける数週間前、わたしは、すで

に名前を神殿に提出してあった先祖のために儀式をしてくれるよう頼みました。わたし自身はまだエンダウメントを受けていなかったため、神殿で身代わりの儀式を受けられなかったからです。二人はいつ神殿へ行けるか分からないけれど、都合さえつけば、先祖のために神殿の儀式をしてくと約束してくれていました。そのうちに、わたしは二人に頼んだことをすっかり忘れていました。

日曜日にダーマー兄弟姉妹に会い、二人がわたしの先祖のために儀式を完了してくれたことを知ったとき、わたしはすぐに、二人が神殿へ行った日が何日であったか知りたいと思いました。それはちょうど1週間前の木曜日だったと告げられました。それで、すべてが分かりました。あのいつもの木曜日、わたしが生涯で最も素晴らしい霊的な経験をしたその日は、夫妻がわたしの先祖のために神殿で儀式をしてくれた日だったのです。

10年後、わたしは自分自身のエンダウメントを受けるために神殿に参入しました。そのとき、あのいつもの木曜日の午後に神殿に満ちる御霊を感じさせることによって天父がわたしに与えてくださった賜物<sup>たまもの</sup>についていっそう理解を深め、感謝することができました。□

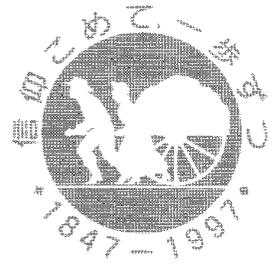
ILLUSTRATION ELECTRONICALLY COMPOSED BY PAT GERBER; DETAIL FROM ADAM AND EVE IN THE GARDEN, BY STANLEY GALLI; PHOTOGRAPHY BY FPG INTERNATIONAL, FLOYD AND WILLIE HOLDMAN, AND CRAIG DIMOND; POSED BY MODEL



アン



# デスの開拓者



全世界の教会の多くの開拓者と同じように、ボリビア、エクアドル、ペルーの初期の末日聖徒たちは信仰と証の道を前進し、その後には多くの人々が続いた。

## アレン・リスター

ペルー南部またボリビア中部から北へ広がるアルティプラノ高原は、東はアマゾンの密林地帯、西には不毛の沿岸地帯を控えた山間地です。イエス・キリストの回復された福音は、南アメリカ北西部のこのアルティプラノ高原に、肥沃な土壌を見いだしました。ボリビア、エクアドル、ペルーの初期の教会員たちは開拓者として、信仰と証をもって前進し、1956年に福音が初めて伝えられて以来、数多くの人々がその後に従いました。

この地域では政治、経済の状況が、教会の成長にも大きなチャレンジとなってきました。しかし、この地域の人々の間では、伝道活動が着実に、また所によっては劇的に進められてきました。1960年代、ボリビア、エクアドル、ペルーにはそれぞれ数百人の末日聖徒しかいませんでした。それが1970年までに合計で約1万5,000人を数えるようになりました。1980年までには、ボリビアだけで1万4,000人、エクアドルに1万9,000人、ペルーには2万3,000人と飛躍的な発展を遂げました。最初の宣教師が来てから50年にして、教会員の生き方そのものと熱心な働きによ

って、現在では3か国で約50万人の会員を擁するまでになっています。

## メッセージに対する熱意

1957年に専任宣教師が初めてロベルト・ビダル、エリザベス・ビダル夫妻の家を訪ねたとき、ビダル姉妹は、彼らのメッセージに対する熱意を感じ、夫が家にいるときもう一度訪問してくれるように頼みました。ロベルトは宣教師に会うことにあまり乗り気でありませんでした。エリザベスの気持ちに尊重することにしました。

最初のレッスンの後、当時ペルーの太平洋岸の都市リマではほかの教会に活発に集っていたロベルトは、教義的な矛盾点や誤りを見つけるために、宣教師が置いていった書物を読む決心をしました。しかし、夜を徹してそれらの本を読み、調べた結果、彼は宣教師が自分に教えたことは真実だという確信を得たのです。これ以来、1989年に亡くなるまで、ロベルト・ビダルは回復された福音の真实性を疑ったことは一度もありませんでした。そして彼はいつも、証と真理の光を言葉と行いによって輝かせました。

左ページ——ペルーの古代インカ文明の遺跡マチュピチュ。

右下——ペルーの初期の開拓者の一人、ロベルト・ビダルは1957年にバプテスマを受けた。

宣教師からメッセージを伝えられたとき、ロベルト・ビダルは銀行で中間管理職として働いていました。彼は若く、聡明で、熱心に働き、自分の考えをはっきりと表現できる人で、最後はペルーで最大の民間銀行の副頭取になりました。仕事上のことでロベルトに接したほとんどの人は、彼がモルモンだということを知り、またその価値観と標準を認めて、彼を尊敬しました。

1970年の末ごろには、ビダル兄弟が多くの人々から尊敬されていることが、カハマルカで働く宣教師たちにも知られるようになってきました。宣教師たちは当時直面していた妨害や宗教的迷信を除くため、市の建物を使い、展示や説明を通して『モルモン書』やそれが古代アメリカの住民とどのような関係にあるかを理解してもらうために、1週間にわたるプログラムを計画しました。





PHOTOGRAPH BY MARINDA TABANGO

ところが宣伝にも熱を入れたそのプログラムが始まる前日になって、宣教師たちは市の職員から、地元のある宗教団体の指導者とその行事を中止させるように申し入れてきた、ということを知られました。宣教師たちは当惑し落胆しましたが、たまたま以前教会のことで訪問したことのある地元の銀行の役員に出会いました。宣教師たちの窮状を聞いたその銀行役員は、リマのビダル兄弟に電話をしました。

「ビダルさん、あなたがモルモンであることは聞いています。わたしはあなたを心から尊敬しています。実はあなたの教会の宣教師が、とても困ったことになっておられます。もし彼らに悪意がないとあなたが言われるなら、彼らの役に立ちたいと思っていますが。」

ビダル兄弟はその銀行役員に宣教師たちを助けてくれるように頼みました。そして、宣教師たちが準備したプログラムは成功を納めました。

1970年の初めごろまでに、ビダル兄

上—ラファエル・タバngoと妻テレサ、そして家族。

右—エクアドルのオタバロの市場。  
右ページ—1978年のサンパウロ神殿奉獻式で、スペンサー・W・キンボール大管長に温かく迎えらるラファエル・タバngo。

弟は支部長、地方部長、そしてアンデス伝道部の副部長などの責任を果たしてきていました。そのころ、十二使徒定員会のゴードン・B・シンクレイ長老と七十人のA・セオドア・タトル長老が501番目のシオンのステークを組織するために、ペルーのリマに来て、ビダル兄弟を新しいステークの会長に召しました。後に彼はペルーの幾つかの地区を担当する地区代表として仕えました。

ビダル兄弟が銀行を退職するのと時



PHOTOGRAPH BY ALLEN LUTSTER

を同じくして、リマに教会のアンデス地域事務所（現在の南アメリカ北部地域）が開かれ、彼は地域監督の補佐に選ばれました。さらに1985年にはエクアドル・キト伝道部を管理する重要な召しを与えられました。

その翌年、ペルーのリマ神殿奉獻式の折に、シンクレイ大管長はビダル兄弟がその場にいなくて気にかけてました。当時のビダル兄弟はペルーで福音を広め、教会を広めるために忙しく働いていました。ビダル兄弟は特に認

められて、キトからリマへ行き、神殿の奉獻に伴う記念すべき数々の霊的な行事に参加しました。

伝道部長の任を終えて間もなく、ビダル兄弟はペルーのリマ神殿の記録部長に召されました。神殿の記録部長と

して働いていた時期に、ビダル兄弟は癌がんにかかっていると診断されました。その病の進行を考えれば彼は自分の責任を代理の記録部長にゆだねるべきでしたが、彼はそうはせず、自分の責任を続けました。

そして、新しい神殿記録部長が任命されたその日に、ビダル兄弟は静かに息を引き取り、この世を去りました。彼は自分のなすべき働きを終え、その証あかしは約30年前に福音が真実であると確信した夜と同じく力強いものでした。

#### 「わたしは天から教えを受けました」

アマゾン川はアルティプラノ高原を取り巻く山岳部に源を発して、北に向かいクスコやマチュピチュの古代インカ文明の遺跡の辺りを通り、エクアドルから流れてくるナボ川と合流します。ボリビア、エクアドル、ペルーで最も広く使われている言語はスペイン語ですが、アルティプラノ高原やアイマラの山岳地帯ではケチュア語またはキチュア語がいちばん多く話されています。

当初、伝道活動は太平洋沿岸地域の大きな市を中心に展開されましたが、間もなくアルティプラノ高原や、エクアドルの首都キトから北東に100キロほど離れた緑豊かな山峡地帯にあるオタバロのような山岳都



市にも広められるようになりました。キチュア語を話す人々はほとんどがオタバロ族です。オタバロ族は回復された福音を受け入れることによって、活気ある勤勉な民となり、スペイン語以外の言語を話す住民のユニットとしては南アメリカ西部で最初のステーキが彼らの中に組織されました。

オタバロ族のインディオで最初に福音を受け入れた一人がラファエル・タバングです。彼は町の外れの小さな地所で暮らしていました。ラファエルは本を読むことはあまりよくできませんでしたが、二人の若い宣教師が自分と家族に伝えてくれたメッセージに強い霊的な証<sup>あかし</sup>を受け、間もなく『モルモン書』についての証を得ました。バプテスマを受けた後、彼は家族とともに主の業のために熱心に働きました。以来タバング兄弟は毎週日曜日に賃貸の小さな集会所に着くと、支部長を兼任していた宣教師に、<sup>じゅうぶん</sup>什分の一などの献金を入れた封筒を渡しました。タバング兄弟のわずかな収入は、織物工場で働いて得るお金と、わずかな地所で育てた作物から得たものでした。

バプテスマを受けてからそうたたないときに、タバング姉妹と子供たちの幾人かが重い病気にかかりました。タバング兄弟は家族の快復を祈り求め、治療を受けさせるためにできる限りのことをしました。日曜日にタバング兄弟はいつものように1週間分の収入を支部長に渡しました。するとその若い宣教師は、お金の入った封筒をタバング

ゴ兄弟に戻し、その週に薬を買うためにお金が必要になるからと、心配している気持ちを伝えました。

タバング兄弟は、もう一度その封筒を宣教師に渡すと、非常にきっぱりとした口調でこう言いました。「支部長、このお金はわたしのものではありません。主のものです。わたしには主のお金で薬を買う権利はありません。」

その翌日、タバング兄弟の祈りはこたえられ、病気だった家族が全員元気になりました。

つましい生活をしていたタバング家には15人の子供が恵まれましたが、そのうち5歳を過ぎるまで生き長らえたのは4人だけでした。しかし夫婦の信仰は揺らぐことはありませんでした。1978年の秋に、タバング兄弟姉妹は大きな犠牲を払って、南アメリカ大陸を横断し、ブラジルのサンパウロ神殿の奉献式に出席しました。そこで彼はスペンサー・W・キンボール大管長に温かく迎えられ、旧交を温めました。奉献式の後で、タバング兄弟姉妹はエンダウメントと結び固めを受け、永遠の家族への希望と確信を得ました。その後、すでに亡くなっていた子供たちとも永遠の結び固めの儀式を受けました。

タバング兄弟は教育を受ける機会にはあまり恵まれていませんでしたが、それは福音を学び理解する妨げにはなりません。あるときタトル長老に、どのようにして『モルモン書』への深い理解を得たのかを尋ねられ、彼

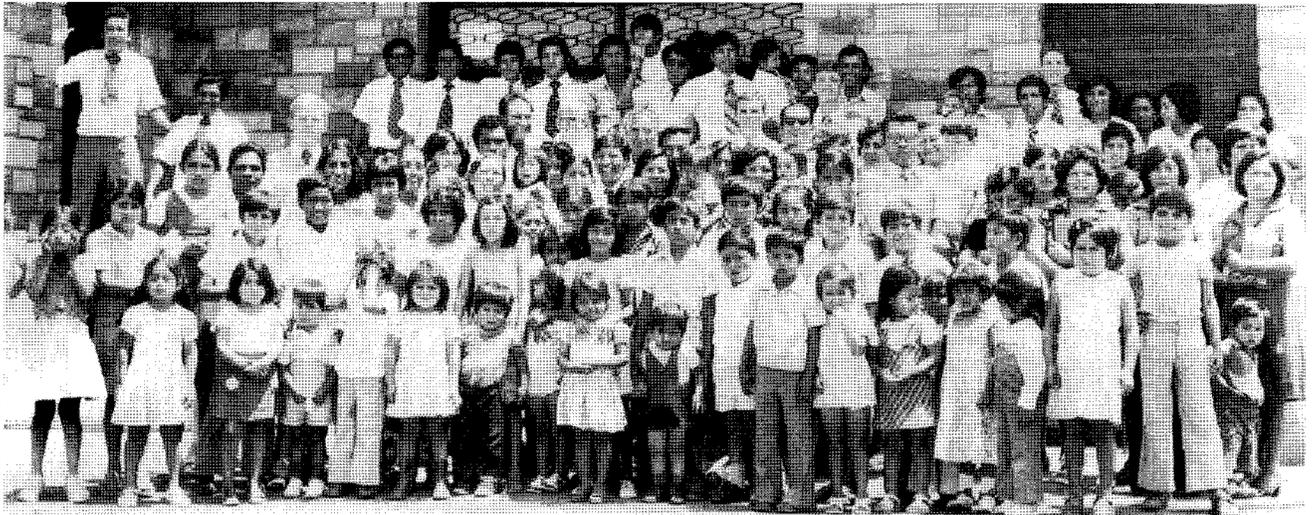
はこう答えました。「わたしは天から教えを受けました。」

オタバロ族の支部の最初の支部長、また最初の地方部長に召されたとき、そして1981年にキチュア語を話す会を組織したエクアドル・オタバロステーキの初代ステーキ祝福師に召されたときも、タバング兄弟はその霊的な洞察力によって、全力を尽くして責任を果たすことができました。

#### 「次の日曜日には、あなたたちと一緒に教会へ行くわ」 .....

1960年代の中ごろ、ペルーのリマのマグダレ地区で働いていた宣教師たちはテレサ・ガイの小さな店に立ち寄って冷たい飲み物でのどを潤し、楽しい会話をするのを楽しみにしていました。食料品などを置いたその小さな雑貨店は75平方メートルにも足らない広さで、棚には缶詰や袋に入った食料品が並べられていましたが、品ぞろえは豊か<sup>あふ</sup>とは言えませんでした。その店の主<sup>あるし</sup>にとって、社交的な宣教師たちの訪問は、昔の幸せだった時代を思い起こさせてくれるものでした。

第二次世界大戦の前、テレサとその家族は母国のイタリアで不自由のない生活をしていました。テレサはある1年間、今ではミス・イタリアのような女性として選ばれたこともありましたが、しかしテレサの家は、政府によって財産を没収され、愛する母国を去らなければならないことになってしま



ました。テレサは最終的にはペルーに来て、そこで結婚し、一人の息子に恵まれました。やがて、テレサは夫に先立たれ、一人息子が結婚して家を出て行きました。

テレサは裏手に小さな2部屋のアパートがある雑貨店で毎週7日間無休で、早朝から夜遅くまで忙しく働きました。彼女は遠い国からやって来た宣教師たちと親しくなれる機会を喜び、彼らを精神的に支えてあげました。そして宣教師たちも、福音のメッセージを喜んでテレサに伝えました。

宣教師からレッスンを受け始めて、テレサは彼らのメッセージに心を動かされました。しかし彼女は安息日きよを聖く保てるかどうか心配でした。とにかく、日曜日は彼女の小さな店の書き入れ時だったのです。宣教師たちは一緒に教会に行くように誘いましたが、彼女は日曜日に店を休む決心がつかず、答えを渋りました。しかし、考えに考えた末、彼女は「次の日曜日には、あなたたちと一緒に教会へ行くわ」と約束しました。

その数日後、テレサは教会に行く約束したその日が12月31日であることに気づき、愕然としました。おみそかのその日は、1年で最も売上げの多い日だったのです。彼女はすでに元日

も店を休むことにしていました。ということは、書き入れ時の2日間を休み、週のうちに最も売上げの少ない火曜日になってようやく店を開くということなのです。

何とか自分の言葉を取り消せないかとも考えましたが、テレサ・ガイにとって、約束したことは守らなければならないというのが結論でした。彼女はその日を休み、宣教師と一緒に教会へ行きました。そして礼拝行事にも出席しましたが、おみそかの集まりのためにほかの店に食料品を買いに行く人々のことがどうしても頭から離れませんでした。

日曜日の午後と夕方、裏手の小さなアパートにいた彼女の耳に、客たちが店の玄関の閉ざされたシャッターをノックする音が聞こえてきました。それを聞かないふりをするのは辛いことでした。客たちは彼女の店を当てにしていたのです。客たちは理解してくれましたでしょうか。また店に買い物に来てくれたのでしょうか。2日間も収入がなくて、その週の仕入れに必要なお金をどう工面したらよいのでしょうか。

大きな不安を抱えながらも、テレサは火曜日の朝に店を開きました。ところが驚いたことに、その日1日の売上げは、開店以来かつてない金額になっ

ペルーのチンボテにあるトルヒーヨステークのラフロリダワードの会員たちは南アメリカにおける教会の成長の典型的な例である。ペルーで最初にバプテスマが行われてからわずか20年後の1970年代中ごろまでに、教会は南アメリカで急速な成長を遂げてきた。

たのです。テレサは、自分が安息日を聖く保ったから、主が祝福を与えてくださったのだと心から思いました。テレサはそれから、日曜日には決して店を開きませんでした。

毎日の売上げを記録した彼女の古ぼけた帳面のあるページに1本の太い線が引かれています。その線の下に書かれた売上げ合計は、かなりの増加があったことを示しています。

何年も前に昔のことを思い出しながらテレサは、「わたしはこの線が引いてある日にバプテスマを受けたのです」と涙ながらに話してくれました。彼女は、回復された福音への証あかしと、教会に入ってから自分の生活を豊かにしてくれた霊的な祝福に、特に感謝しています。

バプテスマを受けてからは、彼女はすぐに教会の活動に熱心に参加し、喜んで召しを受けてきました。彼女は福音の中に大きな喜びを見だし、自分



PHOTOGRAPH BY DON L. SEARIE

が住むリマ地区で働く宣教師も含めて、周囲の人々にそれを輝かし、力づけてきました。

1986年ガイ姉妹はペルー・リマ神殿の奉献式に出席しました。神殿は彼女に無私の奉仕を行う最後の機会を与えました。そのとき80歳近くになっていた彼女は、新しく美しいその神殿で奉仕する召しを喜んで受け入れたのでした。

「疑問に思っていたことが  
すべてこたえられました」

ボリビアのアルティプラノ高原の東端に位置する高度3,800メートルの町ラパスを訪れた人は、空気が薄いために、初めの数日は必ず呼吸するのが苦しく感じられます。このにぎやかな町には欧米の文明の浸透が顕著ですが、ラパスにはまだまだ伝統的なものが色濃く残っています。1960年代の中ごろ、組織されて間もない3つの支部の会員たちが、「変わった」教えを振りかざし、何世紀も続いてきた古い伝統に異を唱えているとして排斥されたことがあります。

その中の一人にホルヘ・レアーニョ兄弟がいました。彼は職場の同僚に、北アメリカから来た二人の宣教師のメ

ッセージを聞いてみないかと誘われていました。ホルヘはジョセフ・スミス最初の示現の話に心を強く動かされ、それを妻のゾルカにも聞かせたいと思いました。ゾルカの妹が1年前にボリビア中部のコチャバンバで宣教師のメッセージを聞いていたこともあって、ホルヘとゾルカは喜んで宣教師を迎え入れました。

レッスンをひとつおわり終えて、バプテスマを受けるようにチャレンジされたとき、レアーニョ家の人々は、そんなに早く結論は出せないと言いました。宣教師たちは、『モルモン書』を読んで、それまで学んだことについて祈ってみるようにもう一度チャレンジしました。それまで、ホルヘとゾルカは各レッスンの最後に宣教師と一緒に祈るだけだったのです。

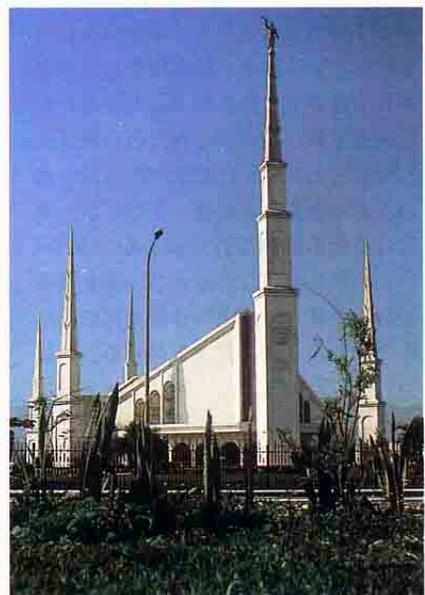
その夜、ホルヘとゾルカは夫婦として初めて、ともにひざまずいて天の御父に祈りました。二人は、天父から示される御心をそのまま行うことを心に決め、熱心に祈りました。そして二人とも、イエス・キリストの回復された福音のメッセージは真実であり、『モルモン書』は神の言葉であるという強い証を受けたのです。次の日、二人は宣教師たちに、バプテスマを受ける準備ができたことを伝えました。そして

1965年9月19日、ホルヘとゾルカは教会の会員になったのです。

上——ステーク大会に集ったエクアドルの聖徒たち。

右ページ——ペルー・リマ神殿のホルヘ・レアーニョ神殿長と夫人のゾルカ・レアーニョ姉妹。

下——二人はボリビアのラパス1965年に教会員になって以来、様々な責任を受けてきたが、天の御父の助けによってそれらの務めを果たしてることができたと考えている。





ホルヘは福音の中で成長していくにつれ、神が再び人間に語りかけられたということを確認するようになりました。彼はこのように話しています。「わたしたちがどこから来て、なぜこの地上にいるのか、またわたしたちの永遠の未来はどうなるのかということについて、疑問に思っていたことがすべてこたえられました。」

バプテスマを受けた後、ホルヘはなりたての銀行員には付きものの様々なつきあい上の習慣を捨てなければならなくなりました。まず彼は同僚たちのからかいと冗談の種にされました。彼らはホルヘが酒もたばこもなしの生活をいつまで続けられるか興味津々でした。しかしホルヘは自分が交わした聖約に忠実でした。そしてあら探しをしていた人々も最後は、何とかして知恵の言葉を破らせようと圧力をかける人々から彼を守る良き理解者となったのです。

レアーニョ兄弟はボリビアの数少ない開拓者の一人として、当時のことについてこう話しています。「教会と福音を恥としなければ、大きな祝福を受けることを学びました。」

教会に入った初めの何年か、ホルヘとゾルカは経済的に苦しい状態を何度か経験しました。あるとき、4人の子供たちのために靴やそのほかの物を買うお金がどうしても必要になりました。しかし彼らの手もとにあったのは、什分の一として取っておいたものだけでした。二人は靴を買うために、

一時的にもせよ、そのお金を「借りた」でしょうか。レアーニョ姉妹は心の底から、そのお金は自分たちが借りるべきものではなく、それを使うように誘惑を受けるよりは、早く什分の一として納めるべきだと言いました。

レアーニョ兄弟はすぐに支部長会の人を探して、その什分の一を渡しました。家へ帰る途中、彼は「さて、これからどうしたらよいものか。必要なお金をどうして手に入れたらいいものか」と考えました。家に着いたホルヘは、家の中であったことを聞いてびっくりし、そして感謝しました。子供たちが以前見つけていた古いプラスチック製の小さな花瓶の中に、100ボリビアノ（訳注——ボリビアの通貨単位）が入っていたというのです。そのお金はどうしても必要だった靴を買うのに十分な額でした。その日から、レアーニョ兄弟は什分の一の律法について熱心あかに証をするようになりました。

レアーニョ兄弟はこれまで主の業をたゆまず果たしてきました。バプテスマを受けてあまりたないうちに、彼はラパスで副支部長の責任に召されました。後には支部長、地方部長に召され、ラパスステーキが組織された1979年にはステーキ会長に召されました。さらにその4年後には、そのステーキの初代祝福師に聖任されました。ほかにも彼は2度地区代表の任を果たし、その間の1987年から1990年にかけてはコロンビア・カリ伝道部の部長の責任を受けています。

1995年からレアーニョ兄弟姉妹はペルー・リマ神殿の神殿長、また神殿長夫人として働いています。彼らの言葉を借りれば、それは「とても、とても特別な」召しです。

レアーニョ兄弟は心に深く考えながらこう話しました。「主から召しを受ける度に、わたしは自分には準備ができていないし、力もないと思ってきました。召しを受けてだいぶたってからでも、そういう気持ちがありました。しかし、わたしは主が御自身の計画をお持ちで、それはよく準備されたものであることを知っています。たとえばわたしが自分には力がないと思っても、主はいつもわたしを祝福し、主の前で責任を果たせるように強めてくださいます。」

南アメリカ北西部の国々で、この教会が数多くの忠実で勇気のある人々を引きつけたのはなぜでしょうか。ホルヘ・レアーニョ兄弟はその疑問にこう答えています。

「まず、住民の多くが、イスラエルの家の直系の子孫だからです。彼らはその血の中に、福音の真理を信じる力を持っているのです。二つ目は、宣教師をはじめとして、主が教会のために備えてこられたすばらしい指導者のおかげです。3番目は、この地の歴史のゆえです。多くの人々がこの地の住民を利用し、虐げてきました。しかし、今人々は立ち上がりたいと望んでいます。彼らはイエス・キリストとその教会に大きな希望を抱いています。」□



Glen S. Hopkinson  
6

『パーリーストリートの西端』グレン・S・ホプキンソン画  
暴徒たちの暴力によってノーブーの家を追われた聖徒たちは数々の困難を味わったが、  
その最初は冬のミシシッピ川渡河であった。



**聖** 文はわたしたちにこう教えている。  
 「互<sup>たがひ</sup>に重荷を負い合いなさい。そうすれば、あなたがたはキリストの律法<sup>まこと</sup>を全うするであろう。」（ガラテヤ6：2）チャレンジに直面したときに助けてくれる友達がいること、それがどんなに大切か、10代の若者たちはノルウェーの山頂で学んだ（本誌「重荷を分け合う」p.10参照）。



# ヒンクレー大管長、南米、 フロリダ州、ワシントンD.C.を訪問

**19**96年11月、南米6か国とアメリカ、フロリダ州への12日間の旅行中、ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、10の都市を訪問し、20以上の集会で、約21万8,000人の末日聖徒と22の伝道部で働く4,000人以上の専任宣教師に話し、政府やメディアの代表者と会見し、コロンビアのボゴタ神殿の建設用地を訪れ、ボリビアのコチャバンバ神殿とブラジルのレシフェ神殿の鍬入れ式に出席した。ヒンクレー大管長には、マージョリー夫人と十二使徒定員会会員リチャード・G・スコット長老が同行した。



コロンビアのボゴタ神殿の建設用地を視察するゴードン・B・ヒンクレー大管長（中央）、リチャード・G・スコット長老（大管長の隣）、そのほかの教会指導者 PHOTOGRAPH BY LOWELL HARDY

## 神殿建設に沸く コロンビアの会員

ヒンクレー大管長の最初の訪問地は、コロンビアのボゴタ神殿だった。ここで大管長は神殿の建設用地を視察し、宣教師たちに話し、大ホールで約7,000人のコロンビアの教会員に説教をした。教会の大管長が、このようにコロンビアを訪問するのは、19年ぶりになる。ボゴタでは、ヒンクレー大管長とスコット長老のほか、七十人であり南アメリカ北地域第一副会長のフランシスコ・J・ビーナス長老、地域幹部で第二副会長のカール・B・プラット長

老も出席した。

訪問先で開かれた大会の説教で、ヒンクレー大管長は、今回建設されるコロンビアの神殿についてこのように語った。「建築状況を見て、とても大きな力を得ました。皆さんは長い間待っておられました。わたしがこの地を訪れてから8年の歳月が流れ、その間に多くの問題が起きました。しかし今、建築が進んでおり、2年以内に完成する予定です。……ここにおられる皆さんが神殿推薦状を得るにふさわしくなるよう努力するならば、皆さんの生活や家庭は祝福され、主の御霊を感じることでしょ。」



チリのサンティアゴでスタジアムに入るヒンクレー大管長（前）とヒンクレー姉妹（左）、スコット長老（右） PHOTOGRAPH BY NÉSTOR CURBELO

## ペルーで進む「神の神聖な業」

次にヒンクレー大管長は、ペルーのリマを訪問し、宣教師たちに会い、計2万8,000人の聖徒が出席する二つの大会を開催した。七十人であり南アメリカ北地域会長のジェイ・E・ジェンセン長老が、ヒンクレー大管長、スコット長老に同席した。

ここでもヒンクレー大管長は、神殿のテーマについて語った。「もしわたしたちが定期的に神殿に参入するのなら、より良い夫、父親、より良い妻、母親になるでしょう。皆さんが忙しい生活をされ、行うべきことも数多くあることをわたしは存じております。しかし、わたしは皆さんにお約束します。もし主の宮へ行かれるなら、皆さんは祝福されます。」

ヒンクレー大管長は、リマの大会に出席した人々が『モルモン書』の遺産を受け継いできたことが分かった。「皆さんの顔を拝見すると、父祖リーハイの姿が目に見えます。皆さんは、リーハイの息子であり娘なのです。きっとリーハイは今日、涙を流していることでしょう。それは愛と感謝の涙です。……ペルーでの御業は、まだ始まったばかりです。全能の主のこの業はさらに前進し、ますます広まっていくことでしょう。これは神の神聖な業です。皆さん、福音を実践しようではありませんか。神の真理に従おうではありませんか。全能の主の助けがあれば、

できないことは何もありません。」

## ボリビアでの鋤入れ式

ヒンクレー大管長は、ボリビアのコチャバンバに集った宣教師たちに、このように告白した。「暑くなると思い、レインコートは持って行かないことにしました。ところが今、コチャバンバでは、過去10年間で最も激しい雨が降っています。」

しかし、神殿の鋤入れ式はその日の夕方、プログラムを短縮して行われた。傘を差したり、ビニールをかぶったりしながら集まった約4,000人のボリビアの聖徒たちへ語った説教の冒頭で、ヒンクレー大管長は、このように呼びかけた。「わたしの愛する、雨にぬれた兄弟姉妹の皆さん。」それから、以前に受け取ったある手紙について話を始めた。差出人は、幼いころにグアテマラ・シティー神殿の鋤入れ式に出席したある若い姉妹である。建築中、彼女は父親と一緒に毎週土曜日、神殿を訪問したという。そして、奉獻式に出席し、その神殿で結婚しようと決心した。数年後、夫となる兄弟に出会い、ほんとうにグアテマラ・シティー神殿で結婚した。

ヒンクレー大管長は、このように述べた。「今日、ここにおられる皆さん一人一人に、今、神殿の推薦状を得るよう、また推薦状を受けるのにふさわしくなるようチャレンジしたいと思います。まだ2年間は新しい神殿に参入

できませんが、神殿で皆さんを待っているものを思い起こすことができるように、推薦状を受けてください。」

## 「今その時」を迎えるチリ

当初の予想を1万5,000人も上回り、4万8,000人のチリの教会員が、300台を超えるバスなどの交通手段を利用して、ヒンクレー大管長の話を聞こうとサンティアゴの屋外競技場へ集まった。サンティアゴでは、大管長とスコット長老のほか、七十人でありチリ地域会長のF・メルビン・ハモンド長老、そして七十人で第一副会長のジェラルド・L・テラー長老、地域幹部で第二副会長のエドワード・A・ラマルティネ長老も同席した。

ヒンクレー大管長は説教の中で、このように述べた。「皆さん一人一人は末日聖徒イエス・キリスト教会の会員です。それは、ある特定の責任を引き受けているという意味です。まさに今がその時です。末日聖徒として今よりもう少し胸を張り、もう少し福音の実践に努め、自分の生活の中で主を敬い、いかなるときにも、どのような状況にあっても正しいことを行うという決心をする時なのです。」

後にハモンド長老は、ヒンクレー大管長の訪問について語り、会員たちが大会に出席するために、ある家族が払った犠牲の模範を採り上げた。その家族はバス代が足りなかったため、一袋の小麦粉を買うのに必要なお金を借りた。母親は買った小麦粉でパンを焼いて町で売り、借りたお金を返し、家族がサンティアゴへ行く往復の交通費に充てたという。

## アルゼンチン

アルゼンチン、パラグアイ、ウルグアイから集まった約5万人の末日聖徒が、ヒンクレー大管長の話を聞くためブエノスアイレスへ集まった。そこでは、大管長とスコット長老のほかに、七十人であり南アメリカ南地域会長のジョン・B・ディクソン長老と七十人で第一副会長のカーロス・H・アマゾー長老、地域幹部で第二副会長のヒューゴ・A・カトロン長老も出席した。

## ブラジルの4つの町

ヒンクレー長老は、宣教師たちとの集会の前に、アルゼンチン国民宗教登記所所長のホセ・カミロ・カルドソ博士に会った。ヒンクレー大管長は、宗教的自由の促進のために尽力したカルドソ博士の功績と、アルゼンチンで教会が受けている敬意と支持に深い感謝の意を表した。カルドソ博士はヒンクレー大管長に、アルゼンチンで宗教上の平等を維持するために全力を尽くすことと、今は宗教相互間の交流と親睦を深める時であることを述べた。

ヒンクレー大管長は説教の中でこのように述べた。「かつてわたしたちは非常に小さなグループでした。今は全世界の160か国に広がり、970万人の会員がいますが、個人が互いに関心を持ち……一人一人に手が差し伸べられています。できることなら皆さん一人一人を抱擁したい思いですが、あまりにも人数が多いためにできません。」

ヒンクレー大管長は、ブラジルに数日間滞在し、ポルトアレグレ、サンパウロ、レシフェ、マナウスの町を訪問した。ポルト・アレグレを初めて訪問した大管長として、ヒンクレー大管長は宣教師たちと集会を開き、夕方、約6,000人の会員たちを前に話しました。その多くは部屋に入り切れず、有線テレビ放送で大会の様を見た。サンパウロでは、大管長は二つの部会で合計4万人以上の会員を前に話し、翌朝、地元で働く宣教師たちに会った。

その後、大管長はレシフェにたち、そこでも宣教師たちとの集会を設け、神殿用地で行われた鍬入れ式で約2,500人の会員と会った。レシフェで行われた夕方の大会には、約1万4,000人の末日聖徒が集まった。ブラジル最後の訪問地は、熱帯雨林の中心を流れるアマゾン河沿いに位置するマナウスだっ

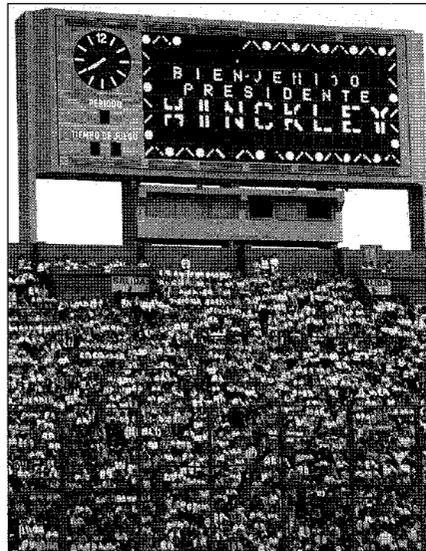
た。そこで、宣教師たちから歓迎を受け、5,000人以上の会員が出席する集会で説教をした。

七十人であり、ブラジル地域会長のダラス・N・アーチボルド長老、同じく七十人で第一副会長を務めるW・クレイグ・ズウィック長老と第二副会長のクラウドイオ・R・M・コスタ長老も、幾つかの集会に出席し、話をした。

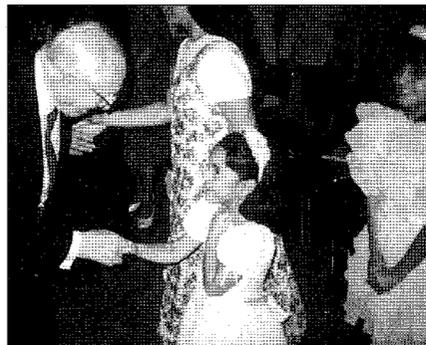
会員たちとの集会で、大管長はこのように述べた。「わたしたちの心と思いと精神に、キリストは神の御子であるという確信を植え付けることほど大切なことは、ほかにありません。……この証<sup>あかし</sup>を持っていない方は、ひざまずいて求めてください。『モルモン書』を読んでください。聖餐会に出席してください。イエスが神の御子であるという確信が、次第に皆さんの心の中に生まれることでしょう。」

ブラジルのレシフェ神殿の鍬入れ式で、ヒンクレー大管長は次のように述

アルゼンチンのブエノスアイレスで、ヒンクレー大管長を歓迎するスペイン語のネオンサイン  
PHOTOGRAPH BY NÉSTOR CURBELO



ブラジルのレシフェ神殿で鍬入れを行うヒンクレー大管長(中央)とスコット長老(左から二番目)、ブラジル地域会長の幹部  
PHOTOGRAPH BY CLEMILSON DE FREITAS COMPOS



ブラジルのマナウスで子供にあいさつをするヒンクレー大管長  
PHOTOGRAPH BY LOWELL HARDY

## ワシントンD.C.での 「美しい話」

南米とフロリダへの旅行から1か月もたたぬうちに、ヒンクレー大管長はワシントンD.C.へと向かった。

ワシントンD.C.ステーキセンターに集まった1,800人の聴衆に対し、ヒンクレー大管長はこのように述べた。「神は、何か価値あることをするために、皆さんを地上へ置かれました。また、神は皆さんに神のしるしを付けられました。皆さんは神の息子、娘なのです。」

翌日、合衆国政府の多くの代表者をはじめ、55か国の大使や使者に向かって、ヒンクレー大管長はルカによる福音書の第2章に記された救い主の誕生の話を読み、このように述べた。「これは、神の御子の誕生について永久に語り継がれる美しい話です。天父の独り子であり、平和の君である神の御子が天の家を離れ、憎しみ合う人々の間で僕として粗末なかいばおけの中でこの世に生まれるために、地上へ降りて来られたのです。ナザレのイエスほど多くの人の心を感動させた人物は、この地上にだれも存在しません。」

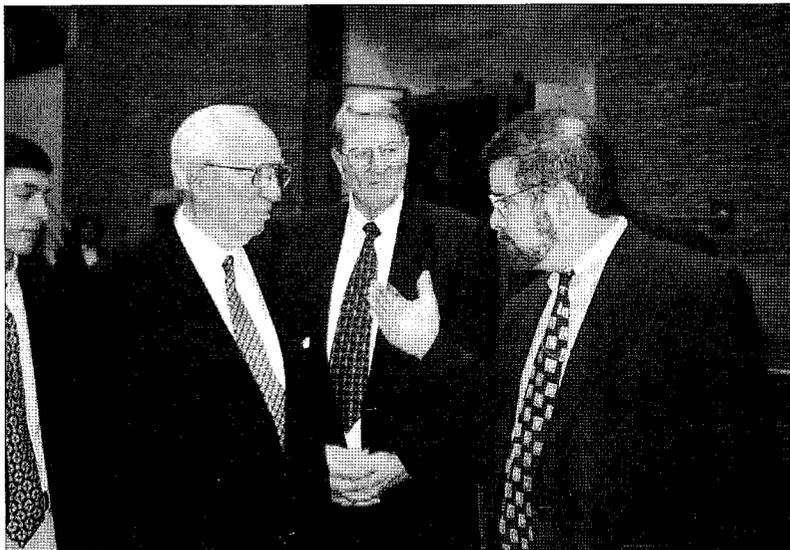
ヒンクレー大管長は、十二使徒定員会会員ニール・A・マックスウェル長老、七十人のボーン・J・フェザーストン長老、ワシントンD.C.ステーキ会長ラルフ・ハーディー兄弟とともに、第二次世界大戦当時、強制収容所で命を失った600万人のユダヤ人を追悼する合衆国ホロコースト記念博物館を見学した。その訪問について大管長は、次のように述べた。「それはとても神聖な経験で、非常に謙遜な気持ちになりました。」

また大管長は、政府の指導者やメディアの代表者との昼食会に出席し、クリスマスの礼拝集会が開かれたワシントン神殿で、約1,300人の儀式執行者と集会を持ちました。□

\*この記事を書くに当たり、以下の人々の協力を得た。ハビエル・トボン・ゴニマ(コロンビア)、ホセ・キローガ・パティエニョ、ピクター・ヒューゴ・アグラモント(ポリビア)、ネストール・カーベロ(チリ、アルゼンチン)、リンダ・リッチー・アーチボルド(ブラジル)、ベス・ボーマン(フロリダ)、ジョスリン・マン・デニヤー(ワシントンD.C.)



フロリダ州サンライズで会員たちにあいさつをするヒンクレー大管長  
PHOTOGRAPH BY NICLOAS BIANGEL



ワシントンD.C.のホロコースト博物館の研究部長マイケル・ベレンボーム博士(右)と話すゴードン・B・ヒンクレー大管長(左)とニール・A・マックスウェル長老(中央)  
PHOTOGRAPH BY JOCELYN MANN DENYER

べた。「主の家で行われる儀式があるからこそ、福音は完全となります。教会の会員であることを完全に受け入れるためには、この聖なる家を建てるのが大切です。皆さんがそれにふさわしく生活するように望んでいます。また、神殿へしばしば参入していただきたいと思います。」

### フロリダ州へ立ち寄る

帰国の途中、ヒンクレー大管長は南フロリダに立ち寄り、フォートローダーデールステーキやマイアミステーキから集まった約6,000人の会員に話をした。サンライズの会場で英語とスベ

イン語の二つの部会が開かれた。大管長とスコット長老のほか、七十人であり北アメリカ南東地域会長のF・バートン・ハワード長老も同席した。

ヒンクレー大管長は夫婦が互いに親切にし、寛大になるように、怒りを抑え、教会の召しや責任を果たすうえで互いに助け合うように勧めた。また、家族は家族の祈りや家庭の夕べを行い、両親は怒りによらず愛によって子供たちを育てるように勧めた。フロリダの会員たちに、もし彼らが誠実で忠実ならば、祝福を受け、必ず天父に感謝するようになるという約束を残し、フロリダを後にした。

# ヒンクレー大管長、 旅行で多忙な一年を終える

1996年、ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、22か国および、アメリカ13州とワシントンD. C. を訪問した。アメリカ国外に住む会員数が国内に住む会員数を上回ったちょうどその年に、大管長は国外に住む31万5,649人の末日聖徒に話をした。移動に費やした距離は、8万5,442マイルに及び、その大半はアメリカ国外の地域であった。

ヒンクレー大管長は1996年4月の総大会で、彼の精力的な旅行計画についてこのように話した。「わたしは自分に力の及ぶかぎり、国の内外を問わず、人々を訪ねて、感謝の言葉を述べ、励ましを与え、信仰を築き、教え、そして人々の証に自分の証を加え、それと同時にその人々から力を頂くつもりです。……わたしは自分にできるかぎり、頑張って前進し続けるつもりです。」(「栄えあるイースターの朝に」『聖徒の道』1996年7月号, p. 75)

1996年に大管長が行った主な活動

- 香港<sup>ホンコン</sup>神殿とマウント・ティンパノゴス神殿を奉献。
- スペインのマドリッド神殿、ブラジルのレシフェ<sup>レシフェ</sup>神殿、ボリビアのコチャバンバ<sup>クワイ</sup>神殿の鍍入れ式を管理。
- 中国本土を訪問する初の大管長となる。
- アルゼンチンのブエノスアイレス、チリのサンティアゴ、ブラジルのサンパウロ、フィリピンのマニラで大勢の末日聖徒に説教をする。
- 福音の伝道地としてカンボジアを奉献する。
- 8つの地区大会で話す。
- 183の説教をする。
- 5つの記者会見を開き、テレビ番組「60ミニッツ」でインタビューを受ける。

ヒンクレー大管長は、1996年の最初の訪問地としてテキサス南部のリオグランデ・バレーを訪れ、次にユタ州南部を訪問した。また、メキシコのベラクルスを訪れ、地区大会に出席。2月

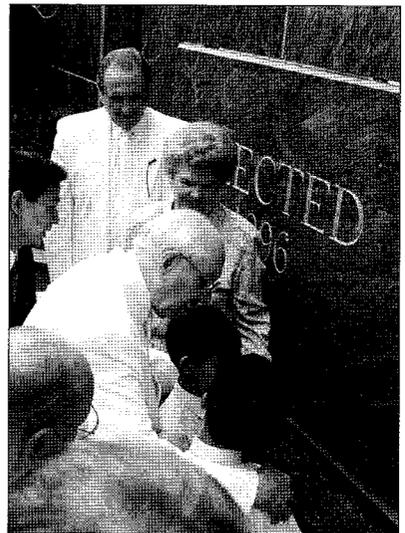
には、ハワイの地区大会に出席し、2月から4月まで、テキサス州北部と中部、ノースカロライナ州、カリフォルニア州、ペンシルベニア州を訪問。

1996年には期間を延長した旅行を3回行い、最初の旅行として5月にアジアを訪れる。18日間に、日本、韓国、台湾、香港、中国本土、カンボジア、ベトナム、フィリピン、サイパンを訪問し、13の都市を訪ね、7万5,000人を超える人々に説教をした。

大管長の精力的な日程は6月も続き、6日間でスペイン、ベルギー、オランダ、デンマーク、ドイツの5か国を訪問。スペインでは、マドリッド神殿の鍍入れ式で話し、スペインを訪問した最初の大管長となる。ヨーロッパ旅行の後、イスラエルを訪問する。

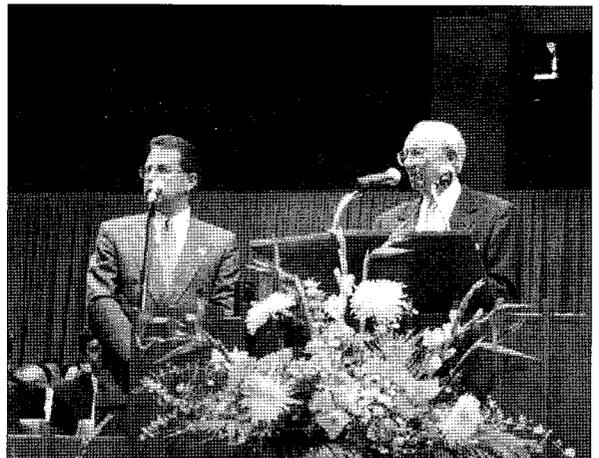
6月から9月にかけては、アイダホ州、イリノイ州、ニューヨーク州、アイオワ州、オクラホマ州、ミズーリ州、オレゴン州を訪問。11月には南米を訪れ、コロンビア、ペルー、ボリビア、アルゼンチン、チリ、ブラジルの21万8,000人以上の末日聖徒に話し、力づける。南米から帰国の途中、フロリダ州の二つのファイヤサイドで話す。

12月にはワシントンD.C.を訪れ、55か国から集まった大使や使者に話をする。その式典では、教会のワシントン神殿訪問者センターで、大



5月、香港神殿の奉献のために香港滞在中、「この神殿はわたしの人生の大きな夢の一つです」と語るヒンクレー大管長

PHOTOGRAPH COURTESY OF CHURCH NEWS



1996年の国外旅行の最初の地、メキシコのベラクルスでの地区大会で話すヒンクレー大管長



7月にアメリカの5つの州を訪問し、アイオワ州カウンスルプラフスで開かれた屋外ファイヤサイドで説教をするヒンクレー大管長  
PHOTOGRAPH BY DELL VAN ORDEN ; COURTESY OF CHURCH NEWS

管長と駐米ブラジル大使の手によって、クリスマスツリーのライトが点灯される。1996年最後の訪問地となったのは、アリゾナ州タクソンだった。ここでは、ファイヤサイドで青少年や専任宣教師、ボーイスカウトに話し、モルモン大隊の記念碑を奉献した。

旅行は疲れるものだが、ヒンクレー大管長は「いろいろな方にお会いし、忠実な末日聖徒の皆さんと握手を交わすことに」(『それは片すみで行われたのではない』『聖徒の道』1997年1月号、p. 57) 喜びを感じている、と話した。主がわたしの力を維持しておられる

間、人々を教え導くわたしのおもな務めは、世界中の末日聖徒に会いに行くことである、と大管長は語っている。(『ワシントン・タイムズ』〔Washington Times〕のラリー・ホイットマンとのインタビュー、1996年12月2日) □

## ネルソン長老、 宗教の自由委員会に指名される

**十** 二使徒定員会会員ラッセル・M・ネルソン長老は、この度合衆国国務長官より指名を受け、宗教の自由委員会の一員となった。この委員会は20人で構成され、あらゆる宗教の人々に対する人権の侵害問

題に関し、国務省への勧告を行う。委員会のおもな目標は、宗教団体と合衆国政府間のより良いコミュニケーションを図り、世界中で迫害を受けている少数派宗教グループに関する政府の知識を深め、宗教的迫害や

宗教的自由の問題に取り組む政府の努力を一般市民に知らせることにある。

ネルソン長老はこのように述べている。「確かに、世界中で採り上げられている宗教の自由の問題は、注目すべき重要な問題です。教会を代表してこの委員会の委員に選ばれたことを光栄に思います。また、この委員会を通して様々な人々と交際する特権を楽しみにしています。」□

## 南米の会員、200万人に達する

**ア** ルゼンチン、ボリビア、ブラジル、チリ、コロンビア、エクアドル、ガイアナ、パラグアイ、ペルー、スリナム、ウルグアイ、ベネズエラの南米12か国の会員数は、1996年6月に合計200万人に達した。現在、南米の会員は全世界の教会員数のちょうど20パーセントを上回っている。世界で4番目に大きな大陸である南米は、世界の人口の約5パーセントを占めるおよそ3億1,300万人の人口を有している。

回復された福音は、1852年、パーリー・P・ブラット長老とルーファス・C・アレン長老がチリを訪問したとき、

初めて南米に渡った。しかしその後、教会がしっかりと根を下ろすようになったのは、アルゼンチンでは1925年、ブラジルでは1929年に、末日聖徒のドイツ人移住者の影響により、宣教師たちが人々にバプテスマを施し始めてからのことだった。十二使徒定員会会員メルビン・J・バラード長老は、1925年12月25日に福音の宣教のために南米の地を奉獻したとき、このように述べた。「どんぐりからかしの木が生長するように、御業はゆつくりと成長します……が、南アメリカ伝道部は教会の中で大きな力となるでしょう。」

現在、アルゼンチンの会員数は、23万5,000人を上回り、ブラジルの会員数は54万8,000人を超えている。宣教師たちは、1947年にウルグアイで、1950年にパラグアイで、1956年にチリで、1956年にペルーで、1963年にボリビアで、1965年にエクアドルで、1966年にコロンビアで、1966年にベネズエラで、1988年にガイアナで、1988年にスリナムで福音の伝道を始めた。今日、ウルグアイは6万4,000人、パラグアイは2万4,000人、チリは39万4,000人、ペルーは27万9,000人、ボリビアは8万9,000人、エクアドルは12万8,000人、コロンビアは11万3,000人、ベネズエラは7万3,000人、ガイアナは500人、スリナムは300人の会員がいる(各国の会員統計は1995年末現在の数字)。□

## ルーマニアのセミナーと インスティテュート

**現** 在、ルーマニアではセミナーとインスティテュートのクラスが開かれている。カナダのアルバータ

から来た教会教育部宣教師のアラン・ダドレー兄弟とパトリシア・ダドレー姉妹が教師たちに訓練を施している。

ダドレー姉妹は、このように述べている。「毎日、わたしたちにとって何かしら霊的な経験があります。青少年たちは、福音の中でますます強く成長しています。」

教会教育部ゾーンコーディネーターのブルース・レイク兄弟の話によると、教育部のクラスは、現在135か国

で教えられているという。ルーマニアのプログラムは、ハンガリーやチェコ共和国、ポーランド、ロシア、ウクライナのプログラムとほぼ同じである。

生徒は自分で聖文を勉強し、週に1度集まる。

ルーマニアのクラスは、9月から実施されている。教会教育部の方針は、

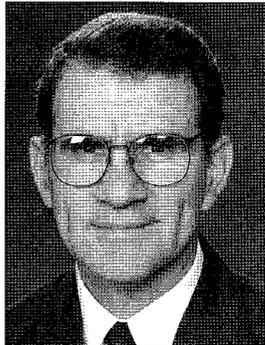
「世界中の若人にイエス・キリストの福音を毎日教えることです」と、レイク兄弟は語る。□

## 南アメリカ北地域会長会へのインタビュー

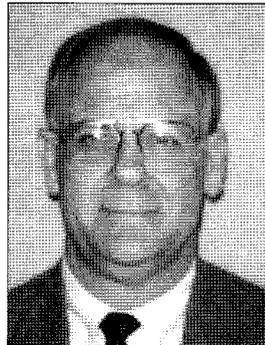
——ボリビア、コロンビア、エクアドル、ペルー、ベネズエラの教会——



第一副会長  
フランシスコ・J・ピーナス長老



会長  
ジェイ・E・ジェンセン長老



第二副会長  
カール・B・プラット長老

**南**アメリカ北地域の5か国では、それぞれ神殿がすでに建設されたり、現在建設中または計画中であったり、建設予定が発表されたりしており、改宗、定着、活発化がさらに進展することが予想されている。ボリビア、コロンビア、エクアドル、ペルー、ベネズエラの教会の最新状況について、本誌の編集者は、七十人であり南アメリカ北地域会長のジェイ・E・ジェンセン長老、そして七十人で第一副会長を務めるフランシスコ・J・ピーナス長老、地域幹部で第二副会長のカール・B・プラット長老にインタビューした。

——これら5か国の神殿について教えてください。

「わたしたちの地域で、これだけ多くの神殿が間もなく誕生し、会員が参入できることを非常にうれしく思っています。地元の大大会に出席する度に、会員の皆さんは自分たちの国に建設される神殿について最新の情報を事細かに知りたがりです。1985年にペルーでリマ神殿が奉献されて以来、ペルーで

は霊的な強さと会員数において成長が足早に進んでいます。しかし、リマ神殿に行くためには、ベネズエラの会員たちは5日から7日、エクアドルとコロンビアの会員たちは、3日から5日を費やさなければなりません。この時間と金銭の負担のゆえに、多くの会員たちは、思うようには神殿に訪問できませんでした。中には、まったく訪問できなかった会員もいます。

しかし、状況はもうすぐ変わります。コロンビアのボゴタの繁華街から約10マイル（約16キロ）離れた場所に位置するボゴタ神殿は、基礎と地下部分の工事が進み、近接した神殿職員宿舎は、完成間近です。エクアドルのグアヤキル神殿は、間もなく着工します。ボリビアのコチャバンバ神殿は、1997年の前期に工事開始の予定です。ベネズエラの神殿は、計画が発表されましたが、神殿用地がまだ最終決定されていません。

神殿は末日聖徒だけでなく、地域社会や神殿が建てられる国家にさえ、大きな影響を及ぼします。実際そのよう

な影響を、ペルーのリマ神殿で目にしました。最初は神殿の近くに住む人はごくわずかでした。しかし今日では、手入れのよく行き届いた家々が立ち並び美しく明るい街路が、神殿を取り囲んでいます。ボゴタ神殿やグアヤキル神殿の建設用地の周辺でも、すでに同様の現象が起きています。また、神殿の影響力が人々に及ぶにつれて、人々の心の中にすばらしい変化が起きています。新たな神殿の建設は、湖に石を投げるようなものです。波紋が周囲に広がり、それに触れた人々の心を高揚させるのです。」

——これらの国々では、教会はどのように発展していますか。

「これらの国々では、2世の教会員が強く成長している様子が伺え、とてもうれしく思います。例えば、ボゴタにある宣教師訓練センターを最近訪問した折り、一つの訓練地区で9人の宣教師のうち8人は帰還宣教師の子供たちであると分かったのです。この統計は、教会員の大きな成長と発展を表しています。最近、ペルーやコロンビアで働いていた北アメリカの宣教師と中央幹部が、政治的に不安定な状況のために別の地域へ移りましたが、ラテンアメリカ、および北アメリカの宣教師たちは現在、互いの文化を補い、強め合いながら、5つの国で一緒に働いています。

試練はわたしたちの成長を助けるものであり、これらの国々でも同じことが言えます。例えば、ジェンセン長老が1970年代の半ばにコロンビアで伝道部長を務めていたころ、北アメリカの宣教師たちは、コロンビアへ入国する際に必要なビザが入手困難になってきました。しかし、1975年にはわずか3人だったコロンビア出身の専任宣教師の数は、1978年までには50人以上に増えました。北アメリカの宣教師の人数が減ったために生じた試練を、地元の教会員たちは見事に克服しました。当

時、地元で働くよう召された長老たちは、現在、ステーキ会長や監督として活躍し、中には伝道部長や地区代表を経験した人もいます。これらの国々の経験豊富な指導者たちの力と層の厚さについて、わたしたちは大変自信を持っています。」

—教会員たちは、どのようにして福音の開拓者となっていますか。

「わたしたちの教会員が直面している一つの問題は、貧困です。多くの教会員は、交通手段や通信手段にあまり恵まれず、ホームティーチングや家庭訪問のような指導を行うことがいっそう難しくなっています。教会に出席することさえ難しい人もいます。わたしたちがステーキ大会に出席して、建物の外に駐車している車が数台、またはそれ以下ということも珍しくありません。教会へ行くための費用がないために、今週の日曜日は母親と娘が、次週は父親と息子というふうに、家族が交替で教会に出席しているという話を聞いたこともあります。これらの困難な問題を解決するよう会員たちを助けるために、教会は、地理的にも人数の面でもユニットを小さくするように努力しています。無理なく各自が徒歩で集会所へ行けるようにすることが理想です。

これらの国々の教会は、これまで人

口が集中する地域から家がまばらな地域へと成長してきました。そして、これからも同様に成長を続けていくことでしょう。しかし、予想外の奥地にも力が結集されて広がっているのが見いだされます。末日聖徒の開拓者たちの努力のおかげで、教会員はこれらの国々の至る所に住んでいます。例えば、伝統的な言語や文化を守ってきた奥地に住むインディアンにも福音が伝えられているのを知っています。こうした先住民の集団の一つでは、支配者の息子が大都市へ出て教育を受け、そこで宣教師に会い、改宗しました。彼は村へ帰り、先住民の間に福音の力を及ぼすようになりました。彼のような開拓者は、5つの国々で福音の発展を促進しています。

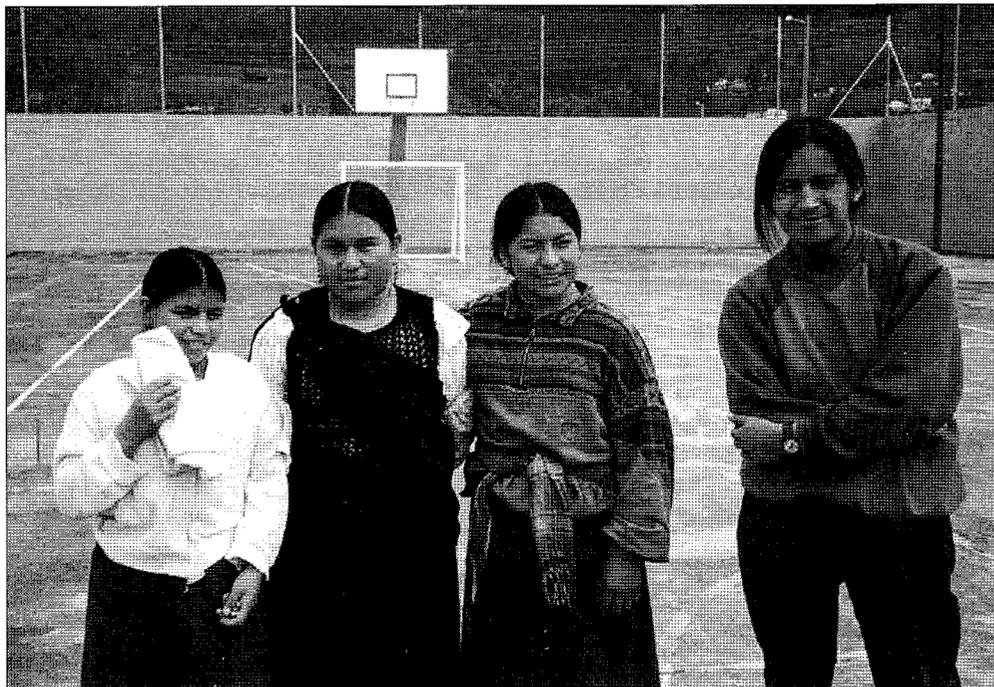
これらの国々では改宗者の大部分は、貧しくつましい階層で育った人々です。これらの新会員の多くにとって、福音は触媒の働きをなし、会員が人生において進歩し向上するうえで新しい分野を切り開く助けとなります。福音は彼らの心の中に浸透し、人々に手を差し伸べ、仕えたいと望む気持ちをもたらします。教育を受け、勤勉に働き、生活水準を向上させることにより、家族により良い暮らしをさせてやりたいという気持ちを起こさせます。」

—会員の定着や活発化の問題を解決するために、会員たちはどのようにしていますか。

「新会員を定着させるうえでまず大事なことは、できるかぎり家族全員にバプテスマを施すことです。宣教師はそうするよう努力しています。次なる目標は、家庭の中に神権の力を注ぐことです。最初はアロン神権、次にメルキゼデク神権です。家長が神権を持ち、教会に活発に集うと、妻と子供たちと一緒に教会の活動に参加することができます。5つの国々に神殿が建てば、より多くの会員が、バプテスマを受けてから1年後に神殿に参入する、という現実的な目標を達成できるようになり、改宗者の定着率は伸びることでしょう。

スペンサー・W・キンボール大管長は、リーハイの謙遜な子供たちは、心を開いて教えを受け、改宗し、活発に集っていると述べましたが、わたしたちも同感です。彼らは『モルモン書』に記されたすばらしい約束に対し、疑いを持たずに耳を傾ける霊的な感受性を持っているように思われます（「レーマン人の中に見られる奇跡」『聖徒の道』1981年4月号参照）。何らかの理由で教会を離れて行く人々のために必要なのは、愛の気持ちで訪問し、戻っ

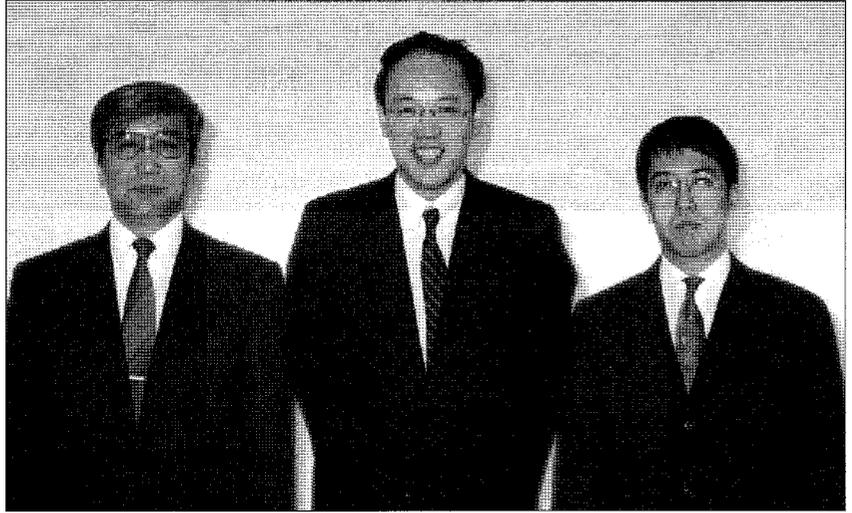
て来るように呼びかけることにほかならないのです。それについて一つの例を挙げたいと思います。ペルーのある町で、第4番目のステーキが組織される2か月前、あるプログラムを計画し、地元の指導者たちがその地域の会員記録に名前のある人をすべて訪問しました。すると数週間もたたずに、多くのユニットで聖餐会の出席者が劇的に増加しました。このような結果を見ると、愛され、福音に導かれたいという人々の意思が伝わります。これらの国々の教会の発展は、まだ始まったばかりであると感じています。」□



エクアドルのオタバロに住むマルドナド家族は2世と3世の教会員 PHOTOGRAPH BY PAM WILKES

# 再組織された大阪北ステーク会長会

去る2月16日、アジア北地域会長会第一副会長のレックス・D・ピネガ一長老管理の下に開催された大阪北ステーク大会で、1987年よりステーク会長の責任を果たしてきた牧瀬<sup>じゅうじろう</sup>兄弟が解任され、新たに岩木<sup>まさあつ</sup>兄弟（写真中央）が召された。ステーク第一副会長には岩田<sup>まさかた</sup>雅方兄弟（写真左）が、第二副会長には山崎<sup>なるあ</sup>洋介兄弟（写真右）が召され、その任に当たる。



## 福音と家族を大切にする シオンのステークを

——福音の喜びを分かち合える機会が増えたことに感謝——

大阪北ステーク会長  
岩木正篤

**新** たな責任に召され、その重さと期待の大きさに、ただただ恐れています。また同時に、5年間の監督としてのすばらしい召しから離れる寂しさも感じています。川西第二ワードでの監督としての責任は、わたしたち家族にとって楽しく、また短い期間であったように思えます。

これまで多くの方々の祈りにより、監督の召しを果たすことができました。新しく召された監督に、わたしたちも心より従い、支持し、監督とご家族のために祈る家族になろうと考えています。

### 歴代のステーク会長に導かれ

伝統ある大阪北ステークは、歴代のステーク会長の責任にあった神尾<sup>のほる</sup>昇兄弟、中村<sup>はるよし</sup>晴兆兄弟、牧瀬<sup>じゅうじろう</sup>兄弟により

よって導かれてきました。わたしは、神尾兄弟よりメルキゼデク神権の長老の職に、中村兄弟から大祭司<sup>おんしゅう</sup>の職に、牧瀬兄弟より監督の職に<sup>あんしゅう</sup>按手聖任していただきました。

わたしは、これらの先輩指導者と比べ、靈性、信仰、経験、知恵のいずれも劣っています。しかし、これらの立派な指導者の按手により頂いた神権<sup>なら</sup>の権能と先輩指導者の模範に倣い、この重責を果たしていきたいと決心しています。主の専任宣教師として召され、同僚以外教会員の一人もない伊勢市と刈谷市で伝道したときに、主に頼ることを教えられたように、神を信じる信仰により「弱さを強さに変え」（エテル12：27）てくださる神様の導きを見たいと思います。

司令官モロナイが「自由の旗」（アルマ46：13）を掲げ、神と宗教に忠実であるかぎり神は我々を支え、保ち、守ってくださると教えたように、福音と

家族を大切にするシオンのステークをつくっていきたくと望んでいます。

### ソルトレーク神殿での出会い

昨年の春、家族でアメリカを旅行しました。ソルトレークでの教会の総大会にも出席しました。大会前日、夫婦でソルトレーク神殿に参入し、神殿宣教師によるライブセッションを受けました。日の栄えの部屋を出て廊下を歩いていると、年配の神殿職員の方から「日本人ですか」と呼び止められ、「神殿内を案内してあげましょう」と、わたしたち夫婦を案内してくれました。上の階へ行き、大管長会と十二使徒による集会が開かれる部屋、ドア飾りのビーハイブの彫刻、ロレンゾ・スノー大管長が神殿内で主とまみえた所などを見せてくださり、大会の前にはすべての中央幹部が神殿にそろうことなどを説明していただきました。

ふと胸の名札を見ると、その年輩の神殿宣教師と思っていた人物が神殿長であることが分かりました。そして優しく「わたしの祖父ヒーバー・J・グラントは、日本で最初に伝道した宣教師です。祖父は日本人を愛していました。ですからわたしも日本人を愛しています。ソルトレーク神殿によく来てくださいました」と言われました。



岩木ご家族

その日の夕方、3人の子供たちを神殿の庭に入れてやりたい思い、だれもないゲートの横から庭に入って写真を撮っていると、60歳ぐらいの神殿警備員が近寄って来ました。

普段入れない所なので、多分出ていかされるのかなと思っていますと、ここでもまた、「日本人ですか」と尋ねられました。そして彼が18歳のとき、アメリカ軍の兵隊として沖縄に駐留していたこと、そのときは毎日お酒を飲んでたこと、19歳で立川に移り、そこで福音に改宗したことを話してくれました。そして「日本は、わたしの（霊的に新たに生まれた）母国だ」と言い、わたしの3人の子供に日本と日本人を愛していること、この福音は真実であ

ることを<sup>あかし</sup>証して、3人とも伝道に出て、神殿で結婚するようにと励ましてくれました。

### 福音を伝えてくれた宣教師と 25年振りに再会

旅行のいちばんの目的は、わたしに福音を教えてくれた宣教師と25年振りに会うことでした。求道者時代、『モルモン書』を手渡されたときに「この本を読み、そして信じなさい。そうすればあなたの人生に偉大なことが起こるでしょう。真理を分かち合えたことを感謝しています」と英語で書いてくれました。

25年振りにその宣教師と彼のご家族とお会いして、心より歓迎を受けまし

た。今は学生ワードの監督として働き、娘を神殿結婚へ、息子をロシアで働く専任宣教師に育てた彼は、今もわたしの宣教師であり、模範です。彼の教えてくれた真理に従って生活し、福音を分かち合える家族を持てたことに感謝しています。彼に「井戸の水を飲み、渴きをいやしたとき、その井戸を掘ってくれた人の苦勞を決して忘れない」と伝えました。

新しい責任を頂くことにより、兄弟姉妹と福音の喜びを分かち合える機会が増えたことを感謝しています。わたしたちも愛と信仰を持った家族になるよう努力していきます。(いわき・まさあつ)

## 岩木正篤ステーキ会長 の紹介

1953年兵庫県神戸市生まれ。1971年神戸ワードで改宗。1975-77年、名古屋伝道部専任宣教師。1978年関西学院大学商学部卒業後、株式会社矢野経済研究所入社。住宅・都市開発関連の市場調査、需要予測分野を担当。現在、開発調査部部长。通産省活路開拓調査事業にて、2年間学識専門委員。1980年に森康子姉妹と結婚、翔（13歳）、恵美（12歳）、慶（10歳）の2男1女。教会にあっては、これまで高等評議員、ステーキ伝道部長、ステーキ幹部書記、監督、長老定員会会長などを経験。川西第二ワード所属。

## 関東地区独身会員 特別ファイヤサイドに760人が集う

—「シオンの中の独身会員」をテーマに—

**関**東地区全域から独身会員の兄弟姉妹が集う、この規模では初めての独身会員特別ファイヤサイドが、2月23日（日）吉祥寺にある東京ステーキセンターで開催されました。

「シオンの中の独身会員」というテーマで、アジア北地域会長会のデビッ

ド・E・ソレンセン会長管理の下、東京ステーキの鈴木和夫会長の司会により、12時からの聖餐会からプログラムが始まりました。18人の神権者により、速やかに聖餐式が執り行われ、会場に集まった約760人の兄弟姉妹が主の聖餐にあずかったのです。

### 人のために奉仕する人

バーラ・ソレンセン姉妹はお話の中で、ご自分も結婚が早かったわけではなかったこと、わたしたちの千年は主の一日であり独身時代は決して長くはないことを挙げ、励まされました。

また、ヒンクレイ大管長と同行された経験を通して、彼は決して消極的な発言をしない、いつも積極的な態度を示す人格の持ち主であることを学び、



そのような態度を模範にするよう勧められました。「自分のことのみを考えている人は、不幸な人です。人のために奉仕する人は幸福を得ます」という大管長の言葉も引用されました。

そして、アルマ書第37章37節にある「あなたのすべての行いについて主と相談しなさい。そうすれば、主はあなたのためになる指示を与えてくださる。まことに、夜眠るときは、眠っている間も主が見守ってくださるよう、主に身を託して寝なさい。そして、朝起きるときに、神への感謝で心を満たしなさい。これらのことを行うならば、終わりの日に高く上げられるであろう」という聖句と、ニーファイ第二書第32章3節の「天使は聖霊の力で語る。したがって、天使はキリストの言葉を語る。さて、わたしは、キリストの言葉をよく味わうようにあなたがたに言った。見よ、キリストの言葉はあなたがたがなすべきことをすべて告げるからである」という聖句を暗記するように、また、毎週安息日には教会に集うように特にチャレンジされました(ヨハネ6:53-54参照)。

## 若人への結婚のアドバイス

最後にソレンセン会長は、次のように語りました。「兄弟たちは、ソレンセン姉妹のような女性と結婚できれば素晴らしいと思います。つまりイエス・キリスト様への強い信仰を持っている女性です。この真実の教会、ジョセフ・スミス、生ける預言者、『モルモン書』への証あかしを持っていて、あなたを愛している人と結婚できれば、後のことは何とかなるものです。

皆さんは、デートしている人と結婚するだろうと考えるかもしれませんが、結婚する人とデートすることも忘れないでください。」このように、ソレンセン長老自身、息子さんに言ってこられたことを、若人にも勧めてくださいました。

また、わたしたちの周りには、マッチメーカー(引き合わせ役)として相談に乗ってくださる先輩指導者がいらっしゃいますので、メモを頂ければご紹介くださるとも言われました。

次に教義と聖約第84章20節を引用され、わたしたちは神性の力を得るために神の儀式を受けなければならないこ

と、すなわち、バプテスマ、<sup>せいさん</sup>聖餐、神権、エンダウメント、永遠の結婚、これらに精力と信仰を使って集中し、目標とするように強調されました。まず、兄弟たちは行動を起こし、神殿で結婚できるよう目標を定めること、姉妹たちは信仰、忍耐、寛容を示すことが大切であると話されました。

## 独身会員へのビジョン

その後の「全体集会」は「独身会員の本来あるべき姿」というテーマで、横浜ステークの遠藤大会長の司会の下にスキットや視覚資料を使っのプレゼンテーションが行われました。

スキットは、独身会員の中の年齢のギャップ、リーダーシップ、結婚、自立などの問題提起を楽しく見せてくれました。

山新田高等評議員(横浜ステーク)からは、現在の独身会員サポート委員会の位置づけ、組織、独身会員が強められることによる波及効果、受けることのできる祝福などのビジョンが示されました。

鈴木会長からは、独身会員の特性、良さ、改善されると大きな祝福になる



若人への期待とビジョンを語るアジア北地域会長会のデビュー・ソレンセン会長夫妻

であろう点について、年齢別に的確な鋭い分析を発表していただきました。

後の「交流会」では、紹介ゲームや友人を作る活動が生まれ、有意義な一日を過ごしました。

当日出席した人々からのアンケート調査では、ソレンセン会長ご夫妻のメッセージが印象的であった、独身会員の人数に驚いた、将来に対して力を感じた、懐かしい人々と再会できた、会員でない友達が出席して良い雰囲気を感じてくれた、自分自身の証を再確認した、などの回答が寄せられました。(レポーター：沼野<sup>のりみつ</sup>範実、横浜ステーキ幹部書記)

## 堺ステーキ146人の神殿団体参入 ——羊飼いの声に聞き従うことの祝福——

堺ステーキ堺ワード  
杉本美智子

**昨**年11月23日、堺ステーキの146人の会員がエンダウメントを受けました。これは東京神殿が奉獻されて以来、初めての単独セッションの人数です。

### 神殿長のチャレンジを受けて

わたしたちがこの目標に向かって歩み始めたのは、9月21日の菊地良彦神殿長を迎えての神殿ファイヤサイドの

日からでした。神殿長と沖村兄弟(元神殿宣教師)のお話は、わたしたちの霊を鼓舞するものでした。神殿長は「霊界で待ち続けた人々が、自分の神殿の儀式を受けられるその日、その死者の方々は何をいちばんに思うでしょうか。自分のために儀式を受けてくださる方々が、この地上でいつも幸せであるように祈るのではないのでしょうか」と話されたのです。

わたしは何度、この言葉に励まされ、自分の煩いを捨てて神殿に参入したことでしよう。儀式を受ける度に、いつ

も死者の方々の愛と祈りを心に感じながら家路に就きました。多くの堺ステーキの会員も同じ思いでファイヤサイドの話聞いていました。やがて、そのすばらしい集会も閉会するために賛美歌が歌われ、祈りに移ろうとしたとき、神殿長が再びマイクの前に立たれました。「賛美歌を歌っている間、強い御<sup>みたま</sup>霊を感じました。今から一つの約束を伝えたいと思います。神殿のセッションの一部屋には98の席がありません。東京神殿が奉獻されてから現在まで一つのステーキだけでこの部屋を満席にしたことはありません。しかし、この堺ステーキが来年の早いうちにこれを達成するならば、この地に奇跡が必ず訪れます」と語られたのです。

### 「奇跡が起こる！」

わたしたちは、思わず顔を見合わせました。それは「えっ、ほんとに？」と思ったのです。「できるだろうか」「奇跡が起こる！」そして、いつしか「早くやってみたい」と感じるようになっていました。来年2月の参入で、とにかく達成してみようと……。

しかし、ステーキ会長会は、時を選びませんでした。彼らの信仰と従順、そして、わたしたち会員への愛とが、2月まで待てないと感じさせたのです。11月23日の参入を、その奇跡の達成の日しよう、すべてのユニットの指導者に伝達されました。そのときから、「達成の日」に向けて会員たちの信仰



杉本ご家族

と努力が傾けられるようになったのです。

神殿推薦状保持者の面接が始まり、また各ユニットから何人が確実にに行けるかの確認がなされました。あるワードの扶助協会会長は、各家族の状態（費用、託児、交通手段、健康状態、家族の理解）を把握し、援助できるよう神権者に報告されました。

## 堺から東京へ総勢200人が移動

ある姉妹たちは、老齢の姉妹のために車いすを借用して飛行機で行くようになりました。「神殿に皆で行きましょう！」と、いつでも、どこでも声をかけ続け、祈り続けた方々も数多くいたのです。別館で、ほかの子供の託児をするためにだけ神殿に行こうと決心した子供もいます。ある夫婦は、自分たちの家に子供を預かることで、その両親が神殿参入できるように助けました。また、病床にある親の看病を引き受けることで、神殿に行けるように助けた姉妹もいました。至る所で、神殿参入への犠牲が払われました。堺から東京へと総勢200人が移動したのです。

こうして、11月23日12時45分、堺ステーキだけのセッションが行われました。それは、わたしたちにとって開拓者の思いと同じものでした。主の祝福を待ち望んだのです。

## 生涯忘れられない光景

そのセッションの光景は、生涯忘れることはないでしょう。白い衣で参入した人々の顔は、皆光り輝いていました。死者の霊と主の御霊がそこにとどまりました。霊界の幕が薄くなり、生



堺ステーキによる神殿団体参入

者と死者が一つとなっていました。皆様々な思いが心に浮かんでくるのでしょうか、涙を流されている方も多くいました。

とりわけ祈りの輪は、すばらしいものでした。南本ステーキ会長がささげる祈りは、そこに参入している人々とどまらず、堺ステーキのすべての人人の重荷を取り除き、主の平安に浴することができるようにとの心の叫びでした。だれもが、彼が堺ステーキの羊飼いでであると確信しました。わたしたちは信仰によって何でもできることを改めて体験したのです。

## 従順は天の第一の律法

「見よ、従うことは犠牲にまさり、聞くことは雄羊の脂肪にまさる。」（サムエル上15：22）この聖句が何にも増

して、天の第一の律法であり、すべての祝福は、これに基づくものであることも知りました。

あのファイヤサイドの日、羊飼いの声に従おうと決意したときから主の約束された奇跡は、堺ステーキに起きています。

わたしは、この囲いの一人として養われている特権を心から感謝しています。そして、主がわたしたちに神殿をお与えくださっていることを何よりの祝福だと感じています。

「彼らの救いはわたしたちの救いにとって必要であり……わたしたちの死者なしには、わたしたちも完全な者とされることはないのです。」（教義と聖約128：15）わたしは、これが真実であることを心から証します。（すぎもと・みちこ ステーク宣教師）

## 日の栄えの部屋での感激

——一人一人の信仰と犠牲、努力によって得た祝福——

堺ステーキ堺ワード  
森本菊江

**菊** 地神殿長が昨年9月に来られて、エンダウメントの一つの部屋を

堺ステーキだけで、いっぱいにするようにとチャレンジされました。それにこたえるために、わたしたちはどうしたらいいのか、いろいろ思い巡らしました。

堺ワードの扶助協会には、18歳から89歳まで各年代の姉妹たちが集っています。また、ご主人が教会員でない人は、神殿推薦状保持者25人のうち8人もいます。なかなか神殿に行けないでいる姉妹とともに、家庭、仕事、経済的な事情などの問題をいかに解決していくか、信仰を要する事柄でした。

ご高齢のある姉妹は、足が弱り一人では行くことができません。そのため、ほかの姉妹のお宅から車いすを借り、

二人の姉妹が付き添うことになりました。別の姉妹は、今回初めて神殿参入をするに際し、教会員でないご主人が神殿まで一緒に行ってくださいました。3人の子供を連れて行くのは難しいと半ばあきらめていた姉妹も、ご家族の協力で行くことができました。このようにして、一人一人の信仰と犠牲、努力により19人の姉妹が参入できました。

神殿で、神殿長が涙を流してわたしたちを歓迎してくださいました。エンダウメントの部屋では、身動きできないほどのいすが並べられました。一生懸命主に頼り、努力してこられた姉妹たちの顔がそこにありました。「日の栄えの部屋」で言葉を交わすときの喜びは、ほんとうに何にも替え難いものでした。主の愛がそこにあり、まさに「日の栄えの王国」がこのような所で

あることを教えてくださいました。

わたしたちは今、より多くの姉妹たちが神殿に強い思いを持っておられるのを知っています。長い間、神殿参入されていない姉妹が、これを機に計画を立てられています。昨年改宗された姉妹の方々は、神殿参入に対し積極的な気持ちで準備されています。主は、確かにわたしたちを祝福してくださいました。このような神殿参入が1回で終わることなく、今年も来年も行えるように、ともに努力し主の祝福を頂きたいと願っています。(もりもと・きくえ ワード扶助協会会長)



森本ご夫妻

## ●日々の恵み● 老いた母とともに ——信仰生活を楽しむ——

札幌ステーキ旭川第二ワード  
菅原和子

今年88歳を迎えるわたしの母は、日ごと子供に戻っていくようなこのごろです。心配症の母でしたが、今では「物忘れの名人」と自称するほどです。心配することも、悩むことも、ほんの少しの時間で忘れてくれます。

老いた母は、2週間ごとに通院していますが、おなじみになった看護婦さんに声をかけられても、その度に初対面のような顔をするので、「おばあちゃんは、いつも新鮮でいいですね」と言われています。おかしいような、寂しいような、また、ありがたいような思いがします。

### 母の姿を通して学ぶもの

昔からまじめに一生懸命働いてきた母なので、今でも何か役に立ちたいと洗濯物を畳んだり、洗った食器をふいたり日々頑張ってくれています。少しの働きでも疲れてはベッドに横になり、横になると、うとうとと気持ちよ

さそうに眠ってしまいます。このような姿を見るにつけ、母はいろいろなことを体全体で教えてくれることがよく分かります。

母の姿を通して、神様が創造された人間の体の仕組みのすばらしさ、神様の救いの計画のすばらしさを感じることができ感謝しています。

母の洗濯物が毎日ありますが、わたしの手の回らないときは、当然のことのように母のおしめも黙って干してくれる夫がいます。電話や手紙で、おばあちゃんに優しい言葉をかけてくれる息子たちがいます。母娘二人だったわたしに、このような家族が与えられたことにも心から感謝しています。

### 労苦は喜びに

うれしい思いをするとき、母は元気だったころのように、しっかりと話もできます。夜、寝るとき、わたしと一緒に祈りをしますが、母のお祈りはいつも短く、素朴な感謝のお祈りです。そんな母がいとおしくて、わたしは母の頬にお休みのキスをしてあげるよう

になりました。母はうれしそうに安心した笑顔を見せてくれます。そんな姿を見ると、わたしもまた、安心するのです。

お年寄りには、うれしい思いや安心感を与えてあげることが、とても大切です。ボケを遅らせる働きにもなっていることがよく分かります。神様が与えてくださった、この家族の関係を大切にしようと思います。

わたしたちは、神様から頂いている賜物を、主の御心に従った方法で心を込めて使わせていただくとき、労苦は喜びに変わります。主の愛は、わたしたちが使うほど、豊かに注がれることを心から証します。苦しんだ後に頂く平安ほどありがたいものはありません。また頑張ろうと勇気がわいてきます。

### 19年前に家族5人で改宗

わたしたち家族が改宗して19年。当時小学校4年生だった双子の息子たちと、まだ60代で元気に家事をしていた母、そしてわたしたち夫婦の5人が家族一緒にバプテスマを受けさせていただきました。このような祝福に恵まれましたことに感謝しています。導いてくださった宣教師さん、温かく迎えてくださった会員の皆さんに心から感謝しています。

## 主によって 生かされていることに感謝

当時のわたしたち夫婦は、働くことばかりで、本を読んで学ぶということからは遠く離れた生活をしておりました。会員となって読む聖典やテキストは、大変難しく感じられ、悩んだ時期もありました。でも、神様の教えとイエス様の示される愛は温かく、子供にも分かる易しいものであることを知りました。「信仰生活を楽しんでください」とおっしゃったステーク会長のお言葉も、最近やっと分かってきたように感じます。

わたしは、話すことも、証を述べることも大の苦手な、いつも消極的でした。しかし、証は主の導きによって頂けるものです。そして、証は御霊みたまによって述べさせていただけることを知りました。

最近の母は、おなかが空いたら眠くなり、満腹になっても眠くなり「わたしの終わりも近いね」と言います。「それは神様しか分からないこと、おばあちゃんも、わたしもみんなゴールまで

しっかり歩いて行かないとね。さあ、また一緒に歌って楽しくおふろに入ろうね。」(わたしが子供のころ、母は一日中忙しく働いていましたが、手を動かしながらも、口はわたしの相手をしてくれました。一緒によく童謡を歌ったり、昔話もしてくれました。そんなことを思い出すのです。)母との会話も楽しくできる幸せに感謝しています。

2年前の入院以来、すっかり弱くなった母は、独りで入浴できなくなりました。一日の生活の中で母のために使う時間が多くなりましたが、夫の愛と理解によって安心して母の世話ができますことを、心からありがたく幸せに思っています。



宮原和子姉妹(右)と母親の下村照子姉妹

これからも主の導きを頂きながら、信仰生活を楽しんで生きていこうと思います。たくさんの方々に支えられ、助けられ、主によって生かされていますことを心から感謝しています。(すがわら・かずこ 扶助協会訪問教師)

## 新刊紹介



### ●『教義と聖約』インスティテュート 生徒用資料(改訂版)

カタログ番号32493 300

A4変形 544頁 1,500円

理解しにくい聖句の注釈や地図、数多くの写真は、『教義と聖約』の研究を効果的に勤めるよい助けになる。



### ●『高い所から力を授けられー神殿準備セミナー』教師用引き

カタログ番号35322 300

A4変形 32頁 無料交付品 150円

神殿に参入する備えをするために、またすでに参入したことのある教会員でも、神殿についてさらに学ぶためにこ

のコースを受講できる。7課のレッスン構成。生徒は、小冊子『聖なる神殿』(30959 300)を副教材として使用する。  
\*生徒用補助教材として使用される『聖なる神殿』は、3月19日付けで無料交付品扱いとなりました。ただし、個人注文、店頭販売については従来どおり有料品扱い(150円)です。

## 絶版のお知らせ

以下の4点が絶版となりました。

●『子供の歌』  
(カタログ番号33429 300)

●『子供の歌-増補』  
(カタログ番号33437 300)

●フィルムストリップ  
『よりよいレッスンを行うには』  
(カタログ番号51268 300)

●フィルムストリップ  
『家族は永遠に』  
(カタログ番号51313 300)

### 『教会書籍ダイレクト注文書』の コレクトサービス手数料の値上げ

4月1日より消費税5パーセントの導入に伴い、『教会書籍ダイレクト注文書』のコレクトサービス手数料が下記のように変更になっていますのでご了承ください。

商品代金	コレクトサービス手数料 (消費税を含む)
1万円未満	309円→315円
1万円以上～3万円未満	412円→420円
3万円以上～10万円未満	618円→630円
10万円以上～30万円まで	1,030円→1,050円

## 3月に召された専任宣教師 第210期生 5人



**齊藤聖仁**  
東京南伝道部  
山口地方部  
宇部支部出身



**石坂誠**  
福岡伝道部  
東京ステーキ  
所沢ワード出身



**後藤勇人**  
札幌伝道部  
神戸ステーキ  
姫路ワード出身



**進藤雄一郎**  
福岡伝道部  
東京ステーキ  
吉祥寺ワード出身



**田中聖子**  
東京北伝道部  
神戸ステーキ  
三木支部出身

●上から氏名、任地（伝道地）、出身ユニット

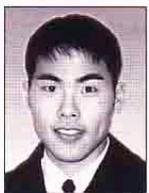
## 海外に召された日本人宣教師



**新山エリサ**  
ユタ・プロボ伝道部  
1997年4月  
東京ステーキ  
三鷹ワード出身



**嶋田智子**  
ハワイ・ホノルル伝道部  
1997年4月  
横浜ステーキ  
横浜第二ワード出身



**根本 誉**  
カリフォルニア・ロサンゼルス伝道部  
1997年4月  
我孫子ステーキ  
牛久ワード出身



**田中敦子**  
ユタ・プロボ伝道部  
1997年4月  
名古屋西ステーキ  
岐阜ワード出身



**鈴木啓史**  
アイダホ・ポカテロ伝道部  
1997年4月  
宇都宮地方部  
古河支部出身



**天野仰希**  
ユタ・ソルトレーク・シティー伝道部  
1997年5月  
東京北ステーキ  
川越ワード出身



**中西顕映**  
アイダホ・ポカテロ伝道部  
1997年4月  
東京北ステーキ  
上尾支部出身



**畠中フミ**  
ソルトレーク・テンブルスクウェア  
訪問者センター伝道部  
1997年5月  
松山地方部  
宇和島支部出身

●上から氏名、任地（伝道地）、召された月、出身ユニット

## 役員の変動

1997年2月15日から3月14日までに管理本部会員統計記録課に通知のあった役員の変動（敬称略）

- 札幌西ステーキ手稲第二支部  
支部長：西嶋吉春
- 我孫子ステーキ日立支部  
支部長：佐藤義幸
- 大阪北ステーキ  
ステーキ会長：岩木正篤
- 大阪北ステーキ川西第二ワード  
監督：松原章
- 大阪北ステーキ豊中第二支部  
支部長：岩間邦美
- 大阪北ステーキ箕面ワード  
監督：中井吉則
- 釧路地方部北見支部  
支部長：加賀谷拓也
- 新潟地方部長岡支部  
支部長：赤沢良一
- 長野地方部松本支部  
支部長：五十嵐大樹

## 皆さんの原稿を募集しています

◎ご投稿の際には連絡先（住所、電話番号）、教会での責任（役職名）、所属ユニット名を記入し、写真を同封のうえお送りください。原稿は一部手直しさせていただきますことがあります。

◎お願い——海外に召される日本人宣教師たちを紹介いたします。伝道の召しを受け取り次第、編集室に写真を添えてお知らせください。（氏名〔フリガナ〕、伝道部名、召された月を明記）

◎あて先：〒106 東京都港区南麻布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト教会 『聖徒の道』編集室

☎03(3440)2666 FAX 03(3440)3275

\*